



千葉大学医学部同窓会報 第161号 題字 故鈴木五郎 (大11卒 元みの は な 同窓会長)

編集発行者  
千葉大学医学部  
みの は な 同窓会報編集部  
〒260-8670 千葉市中央区亥鼻1-8-1  
千葉大学医学部内  
みの は な 同窓会  
電話 (043) 202-3750  
FAX (043) 202-3753  
e-mail : info@inohana.jp  
HP : http://www.inohana.jp/



### 平成24年度 みの は な 同窓会 総会 開催

平成24年度 みの は な 同窓会 総会が、平成24年6月16日(土) 午後4時より、銀座アスターお茶の水資館において開催された。

白澤浩理事の司会により、清陽高穂副会長から開会の辞が述べられた。会議に先立って、物故者126名の冥福を祈り黙禱を捧げた。伊藤会長の挨拶に続いて、白澤理事より会務報告があった。各議事については鈴木信夫副会長、田邊政裕理事から説明があり審議承認された(議事要旨は23面に掲載)。総会に引き続き、平成24年度 みの は な 同窓会賞の表彰式(関連記事は6・7面に掲載)と白澤卓二順天堂大学加齢制御医学講座教授の特別講演が行われた(講演内容 は 2面に掲載)。

白澤浩理事の司会により、清陽高穂副会長から開会の辞が述べられた。会議に先立って、物故者126名の冥福を祈り黙禱を捧げた。伊藤会長



### 会長挨拶

みの は な 同窓会長

伊藤 晴 夫 (昭39)

本日はご多忙中のところ、平成24年度 みの は な 同窓会 総会にご出席戴きまして誠に有難うございます。今回は東京 みの は な 会が当番幹事でした。御苦労さまでした。

みの は な 同窓会では、現在、医学部創立135周年記念事業を行っております。その一つの柱である135周年記念誌は5月31日に発行されました。これは100周年記念誌の発行後35年間の集大成であります。瀧口正樹編集委員長をはじめ関係した皆様のご努力に感謝致します。二つ目の千葉大学医学部の伝統の言語化は、田邊政裕先生のご尽力により、シンボルマークおよびロゴとして纏まりました。シンボルマークは「獅胆鷹目、行うに女手を以てす」という古くから千葉大学で言い伝えられてきた格言を工学部の宮崎紀郎名誉教授に素晴らしい図案にして戴いたものです。また、中山恒明教授の「まず始めること、始めたら止めないこと」からbegin, continueのロゴとなりました。最重要の柱であります新同窓会

館設立は現在入札の段階です。これらの事業遂行のため皆様方から多大なご寄附を賜りまして誠に有難うございました。

みの は な 同窓会報は、清水栄司編集委員長はじめ、編集委員の皆様のご努力によりまして大変充実して参りました。9月号(本号)からは全面カラー化となります。更に、鈴木信夫副会長のご尽力によりオンライン会報の充実も目覚ましいものがあります。皆様方の積極的なご参加をお願い申し上げます。これを通して若い会員の参加が期待できると思います。

本年3月に白衣式は第二回目が行われました。喜ばしいことに、今回はこの費用の大部分を みの は な 同窓会が支援致しました。

みの は な 同窓会賞は、近

#### 紙面紹介

地区 みの は な 会報	11
会員から	11
著書紹介	21
議事要旨	22
人事異動	24
評議員	24
オンライン会報	25
会館設立	26
猪之鼻奨学会	27
記念誌	34
編集後記	35

追悼文 雑文 雑談 研究プログラム

#### 第17回(2012年度) みの は な 同窓会賞 授賞者決定

学術賞  
加藤 直也 (東京大学医科学研究所疾患制御ゲノム医学ユニット、特任准教授、昭61卒)  
「ウイルス性肝炎と肝臓の病態解明と治療応用」  
鈴木 浩太郎 (千葉大学大学院医学研究院アレルギ1・臨床免疫学、特任助教、平6卒)  
「肥満細胞脱顆粒の分子メカニズムの解明」

ものはな同窓会総会

特別講演

いつまでも若々しく生きるために

順天堂大学大学院医学研究科  
加齢制御医学講座

白澤 卓 二 (昭57)



日本は世界一の長寿国

2010年の日本人の平均寿命は女性が86才、男性が79才で、日本は世界一の長寿国、人生80才時代に突入した。20世紀には平均寿命が50才から80才へと30才も飛躍的に延伸し現在も延び続けている。2010年にはヒトゲノムが解明、我々のゲノムには2万3千個の遺伝子があることが判明したが、果たして我々のゲノムの中に寿命を制御している遺伝子は存在するのだろうか？双生児の疫学研究から、寿命が遺伝要因にも大きく左右されることが判明した。環境要因の中でも、生活習慣病の予防に重要な要因として栄養

とから、低GI食材など、インスリンの働きを助ける食材や食べ方を紹介し、環境要因が長寿遺伝子のスイッチをオンにして加齢のスピードを制御する加齢制御の考え方を解説した。

長寿遺伝子をスイッチオンにする

と運動と生きがいがあることが知られているが、講演会では米国で行われているアカゲザルのカロリー制限の実証研究を紹介した。マサチューセッツ工科大学のレオナルド・ガレンテ教授による長寿遺伝子Sirt6の発見により、カロリー制限により長寿遺伝子が活性化されるメカニズムが明らかになった。また、赤ワインに含まれているポリフェノール、レスベラトロールには、Sirt6を活性化し生活習慣病を改善する効果があることがマウスを用いた実験で実証された。また、フィトケミカルの中には、カテキンやクルクミンなどアルツハイマー病の発症を予防する効果が動物実験や疫学調査で認められた食材があり、高齢期の食事のあり方を研究している。また、活動的な百寿者では、インスリン感受性が高いこ

人の体は60兆もの細胞から構成されている。体の中の一つ一つの細胞がそれぞれ2万3千個の遺伝子を持っている。遺伝子の中には老化や寿命を制御している遺伝子が50個から100個程度存在することが明らかにされている。それらの遺伝子はある条件下では不活性化し、細胞を老化させたり、あるときには活性化し、老化のプロセスを遅らせることにより細胞の若さを保つたりすることができると。最近、レオナルド・ガレンテ教授は生活様式により長寿遺伝子が活性化されるメカニズムを明らかにした。ガレンテ教授の発見した長寿遺伝子であるSirt6遺伝子は全身の細胞の老化のプロセスを日々コントロールしている。メタボリック症候群や2型の糖尿病のような生活習慣病の発症メカニズムにも関与していることが分か

った。ガレンテ教授の研究は酵母という単純な生物からスタートしたが、最近ではマウスなどの哺乳動物でも、Sirt6の相同遺伝子(Sirt1遺伝子)が寿命を制御していることが証明され、Sirt6遺伝子が活性化されると動物の寿命が延びることが実験で証明された。ガレンテ教授は酵母や線虫の研究から、これらの生物では摂取カロリーが制限されたときにSirt6遺伝子が活性化されることを突き止めた。酵母で発見された活性化因子NADは我々の体中にも存在し、摂取カロリーが制限されると、細胞内のNAD濃度が高くなることが分かった。つまり、NADは細胞レベルでの栄養状態を反映した因子である。NADはSirt6に結合することによりSirt6を活性化するので、過剰にカロリーを摂取している状況ではSirt6遺伝子は活性化されないことが分かった。つまり、長寿遺伝子Sirt6を活性化するためには適正なカロリー摂取を維持することが必要であることになる。古くから日本では「腹8分目」という目安があったが、ガレンテ教授の実験条件はこれよりも多少厳しい、「腹7分目」もしくは「腹6分目」の条件だった。

しかし、マウスや酵母実験の条件から短絡的に我々の適正カロリーを決めるのは危険があるので、ヒトでの長寿遺伝子を活性化するための適正カロリーを知るには更なる研究が必要である。いずれにしても、我々が毎日食べている食事の内容が細胞の老化のプロセスをコントロールする重要な環境要因であることが解明されつつある。

フリーラジカル説と老化制御

フリーラジカル説と老化制御  
ミトコンドリアがわずかに漏出する酸素が、活性酸素に変化する。活性酸素は非常に毒性が強い酸素種であることが知られている。最初に障害を受けるのがミトコンドリア自身である。次に活性酸素は、細胞膜、たんぱく質、さらには細胞のDNAまで障害を及ぼす。障害をうけたミトコンドリアはその機能が低下し、ますます活性酸素を産生するようになる。最終的には、ミトコンドリアは分解されて、細胞自身が機能不全に陥っていく。活性酸素は、ミトコンドリアだけではなく、細胞のDNAも傷つけていくので、何度もDNAが障害されていくうちに、

傷が深くなり修復ができなくなり、最終的には修復不能になる。本来、DNAは傷を修復する機能を持っているのだが、それでも修復が間に合わないほど過剰に障害をうければ、細胞自体の機能も失われ、異常に分裂をするようになり細胞は癌化する。DNAのもっている遺伝情報も次世代に正確に伝わらなくなる。これらはすべて老化を促進する結果になる。これが活性酸素による老化である。一方、我々のからだは、活性酸素を分解する機能を持っている。2種類の解毒酵素が存在する。最初の酵素が、スーパーオキシドデイスムターゼ(SOD)、次の酵素が、カタラーゼやGPxといわれる酵素である。SODは、活性酸素を酸素と過酸化水素に分解し、カタラーゼやGPxは過酸化水素を酸素と水に分解する。この2種類の酵素が共同的に働いて、活性酸素を無毒化している。これらの解毒酵素の解毒能力を超えて無毒化できなくて残ってしまった活性酸素が細胞の老化、そして体の老化を促進していると考えられる。

c.v 活性酸素の発生は生活習慣や、環境要因に大きく左右されている。喫煙や過度のアルコール摂取、加工食品や食品の中に含まれている残留農薬など、体の中で活性酸素を発生する要因となる。また、過度の運動や睡眠不足も活性酸素の発生を増大させることが知られている。環境要因としては、大気汚染など、呼吸器系を介して吸入される有害物質も体内で活性酸素を生じる要因となる。これらの要因は極力排除することが、活性酸素の発生を最小限に抑えるのに有効である。野菜や果物の中に含まれるビタミンC、ビタミンE、ポリフェノールなどのフィトケミカル(植物化学物質)はいずれも、試験管内で活性酸素を中和する活性がある。積極的に摂取することで体の中で過剰に発生した活性酸素を除去する薬理効果があり、野菜中心の食生活やサプリメントの摂取はストレスの多い日常生活の中で発生する活性酸素を制御するのに有効である。



# 就任挨拶

## 千葉大学総合安全衛生管理機構

機構長・教授 今 関 文 夫 (昭54)



平成24年4月1日付で千葉大学総合安全衛生管理機構の機構長(教授)を拝命致しました。おのほな同窓会の諸先生方に御支援賜り、心より感謝申し上げます。

私は、昭和54年に千葉大学医学部を卒業し、故奥田邦夫教授が主宰する第一内科(現、消化器・腎臓内科学)に入局いたしました。第一内科、第二内科、呼吸器内科で内科一般の初期研修の後、栃木県の上都賀総合病院、静岡県の清水厚生病院で消化器を中心とした内科研修を受けました。昭和57年に千葉大学(もとどり、小俣政男先生(東京大学消化器内科学名譽教授)が主宰されていた第2研究室に入りました。同研究室には現、消化器・腎臓内科学(消化

器内科)教授の横須賀收先生をはじめ、伊藤よしみ先生、内海勝夫先生、森順子先生がいらして研究の初歩を色々と教えていただきました。小俣先生は、当時の臨床教室としてはきわめて斬新な分子生物学的手法をいち早く取り入れ、血清や肝組織などの臨床検体や実験動物の組織を用いて肝炎、肝臓の病態解明に取り組んでおられ、私もその研究の一端に従事致しました。この間、昭和58年から60年に東京の大塚にあった癌研究所に通い、小池克郎先生の指導のもと、遺伝子操作の勉強をする機会を得ました。そして、平成4年に小俣先生が東京大学に移られてからは、横須賀先生の指導のもと、肝臓病の基礎的、臨床的研究を行って参りました。近年では、特にB型、C型ウイルス性肝炎の抗ウイルス剤による治療効果予測、長期生命予後などの調査、研究を行ってきました。千葉大学総合安全衛生管

理機構は、平成16年に保健管理センターと有害廃棄物処理施設が統合して発足した組織です。初代の保健管理センター長は故木下安弘教授、2代目が前機構長の長尾啓一教授で、私は3代目(機構長としては2代目)になります。当機構は学生保健部、労働衛生部、環境安全部の3部門から成り立っています。学生保健部では学生・大学院生・研究生の、労働衛生部では教員・事務職員の定期健康診断、メンタルヘルス相談、一般診療、健康教育を行っています。また、環境安全部では学内の研究室で使用する化学物質の管理、実験廃液の適正処理、研究室の作業環境の管理を行っています。

産業医あるいは委託された衛生管理者が定期的に職場巡視を行い、管理・指導を行い、適正な職場環境の保持に努めています。今までは肝臓病の患者さんの病気を治すことに苦心してきましたが、これからは健康な人が病気になるはず心身の健康を維持できるように、病気になることも早期に治療介入できるように、学校保健医、産業医の視点で、千葉大学に集うすべての学生、教職員の健康管理、環境管理を行っていきたく考えています。

2年半の留学期間を除いて現在まで千葉大学医学部附属病院で麻酔科医として勤務して参りました。この間、日本の麻酔学の草分けである初代米澤利英教授、緩和医療の第一人者であった水口公信第2代教授、呼吸に関する臨床研究を世界レベルに高めた西野卓第3代教授とすべての歴代麻酔科教授の指導を受け、この間の当教室および当教室から輩出された先輩たちの発展を目的の当たりにして参りました。

は、周術期における合併症管理の重要性です。周術期患者の死亡原因のほとんどは術前あるいは術中呼吸循環合併症です。そのため、術前から重篤な合併症を有する患者の場合は、最適な手術療法が制限されることでもあります。周術期気道管理の安全性向上に加えて、今後は様々な呼吸循環環境あるいは代謝疾患の適切な周術期管理確立を目指す臨床研究を進展させる所存です。

先生方との共同研究で得た知識が病態生理解明を大きく推進する原動力となりました。麻酔科学は全身管理の学問ですが、麻酔科学領域のみの知識と能力で重要疾患の周術期管理研究を進めるには限界があります。今後も様々な領域の方々と交流を積極的にに行い、当教室の研究の幅を広げつつ質を向上させ、結果的に診療レベルを向上させたいと考えます。

## 千葉大学大学院医学研究院

麻酔科学

教授 磯野史朗 (昭59)



平成24年6月1日付けで、西野卓前教授の後任として千葉大学大学院医学研究院中核研究部門呼吸・循環治

療学研究講座麻酔科学研究領域教授を拝命いたしました。私は、昭和59年に千葉大学医学部を卒業し、千葉大学医学部附属病院麻酔科に入局した後、千葉県救急医療センター、松戸市立病院、君津中央病院、県西総合病院で研修し、平成元年に帰局しました。以来、約

医学部学生の頃より勉学に熱心な訳ではありませんでしたが、入局一年目に西野前教授から麻酔薬の呼吸抑制に関する研究の指導を受けて以来、臨床研究の面白さと人体の不思議に魅了され、臨床医を継続しつつ研究を行ってきました。1990年にカルガリー大学医学部内科(カナダ)John Remmers教授の下に留学し、閉塞型睡眠時無呼吸の病態生理研究を開始し、以来現在に至るまで愚直なま

同門あるいは他大学麻酔科に多くの人材があるにも拘わらず、今回私が教授として選ばれたのは運と言わざるを得ませんが、私が臨床経験を積み臨床研究を前に進めることができたのは、西野前教授や麻酔科同僚ばかりでなく、様々な診療科の先生方との幸運な出会いがあったためだと思います。耳鼻咽喉科今野昭義前教授は、帰国してまもなく提案した臨床研究を後押ししてくださいました。歯科、耳鼻咽喉科、呼吸器内科、神経内科、脳神経外科などの

### 千葉大学大学院医学研究院附属

#### 子どものこころの発達研究センター

特任教授 中川 彰子 (鹿児島大・昭57)



ゐのほな同窓会の皆様、本年3月1日付で子どものこころの発達研究センターに着任致しました中川彰子と申します。私は昭和57年に鹿児島大学医学部を卒業して、九州大学医学部神経精神医学教室に入局しました。精神医学一般の研修を終える頃に、当時大学におられた日本での行動療法のパイオニアである、山上敏子先生の研究室に入りました。当時の研究室では主として強迫性障害の臨床研究が行われており、以来現在までこの難治で慢性化、重症化する疾患と格闘して参りました。

それまでは主として行動療法一般の臨床に従事していましたが、平成6・8年にはロンドンの精神医学研究所のアイザック・マークス教授のユニットに留学する機会を得て、臨床研究の手法について学びました。日本よりも行動療法が進んでいるイギリスにおいても、行動療法の治療者不足は深刻で、英米で共同開発した電話回線を用いた強迫性障害の自己治療の効果研究を行いました。帰国後にはまず、強迫性障害の行動療法の本ホームページを立ちあげ、本疾患と行動療法による治療についての心理教育的な啓発活動を行いました。日本においては行動療法の治療者、施設不足は深刻で、全国から寄せられるメール相談の内容から、いかに有効な治療へのアクセスが難しいかを痛感し、我が国でのエビデンス(薬物療法との効果比較)を出したいと思うようになりました。

平成10年頃から準備を始めて、治療前後のfMRIによる、脳機能画像検査も含めた、強迫性障害の行動療法、薬物療法、統制治療の効果比較研究(RCT)を行うことができました。行動療法は薬物療法よりも強迫性障害に対して有意に有効で、有効な治療は脳機能異常も正常化させることを証明

することができました。上記の研究が軌道に乗った。開始した平成16年に、縁あって川崎医科大学の精神科学教室に異動しました。九州大学での臨床研究に週1回通院して参加できていた患者さんとは違い、難治で重症な強迫の紹介患者さんを診察しているうちに、かなりの割合で発達障害(自閉症スペクトラム障害)の方が二次障害として強迫性障害を発生していることに気づきました。発達障害の問題がある、それに合わせた環境調整や治療上の工夫が必要で、初診から早い段階で気付いて適切な治療を行うことが求められます。そこで、発達障害を基盤に

### 千葉大学大学院医学研究院附属

#### 子どものこころの発達研究センター

特任教授 中里 道子 (平2)



ゐのほな同窓会の皆様、平素は誠にお世話になっております。平成24年4月1日より、千葉大学大学院医学研究院附属子どものこ

もつ強迫性障害の臨床上の特徴についての臨床研究を行い、いくつかの有用な知見を得ることができました。が、より専門的な発達障害についての勉強が必要と感じていました。このような中、本学の子どもこころの発達研究センターの清水栄司先生からお声をかけていただき、認知行動療法の治療者を育てること、および強迫性障害、不安障害の臨床研究を実践、指導することになり、こちらに來させていただく決心を致しました。精一杯務めさせていただきます。どうぞ宜しくお願い致します。

ろの発達研究センター、こころの地域ネットワーク支援室特任教授を拝命いたしました。私は平成2年に千葉大学医学部を卒業し、千葉大学医学部精神医学講座に入局いたしました。当時は佐藤甫夫教授をはじめ教官の先生方の熱心なご指導のもと、素晴らしい先輩方、同

期にも恵まれ、千葉大学医学部附属病院神経精神科、同麻酔科、松戸市立病院神経内科での初期研修では、熱意あるご指導のもと、大変質の高い充実した研修を経験させていただきました。平成5年より2年間、千葉県立こども病院に勤務し、精神科部長の佐藤眞理先生のご指導のもと、子どもの精神医療の礎を学ばせていただきました。こども病院では、諸先生方をはじめ、スタッフの皆様のご指導をいただき、1型糖尿病の患者さんの心のケアにも携わらせていただきました。患者さんを支援する家族会や糖尿病キャンプなど貴重な経験をさせていただきました。医療の垣根を越えた支援体制の連携の大切さを痛感いたしました。千葉市療育センター、千葉市教育センター等の勤務を通じて、地域に密着した支援のあり方を多く学ばせていただきました。「小児の1型糖尿病の精神障害」の研究テーマでは、博士論文として、千葉大学大学院医学研究院小児病態学教授 河野陽一先生にもご指導を賜りましたことを深謝申し上げます。

平成12年に千葉大学精神医学教室の教授に御着任されました。伊豫雅臣教授の温かなご指導のもと、平成13年より、千葉大学精神医学教室助手を拝命いたしました。千葉大学医学部附属病院精神神経科では、多くの先生方やスタッフの皆様からの格別のご指導のもとに、診療や教育に取り組みさせていただきました。研究面においても、千葉大学社会精神保健教育研究センターの橋本謙二教授をはじめ、諸先生方から多くのご指導を賜りました。平成17年より平成19年まで、英国ロンドン大学精神医学研究所・モーズレイ病院にて、ジャーネット・トレジャー教授のご指導のもと、摂食障害の臨床研究に従事する機会を賜りました。帰国後は、千葉大学医学部附属病院精神神経科、こどもこころ診療部に勤務させていただきました。平成22年より、千葉大学大学院認知行動生理学教室、精神神経科、社会精神保健教育研究センターの先生方のご協力を賜り、

叙勲、褒賞その他祝事に関係された方は是非同窓会事務室までご一報下さい。編集部でも絶えず注意しておりますが、ニュースに接し得ない事態もあります。お喜びはなるべく早く、同窓の皆様にもお分けしたいと思っておりますのでよろしくお願い申し上げます。

千葉認知行動療法士研修コースにおいて、多職種の訓練生の皆様と共に、様々なメンタルヘルスの領域での実践に携わらせていただきました。この度、着任させていただきましたことは、ひとえに多くの先生方の数々のお力添え、また、家族の支えの賜であり、この場をお借りして、厚く感謝を申し上げます。

少子化時代を迎え、子どもこころの問題の専門家の育成へのニーズが高まっています。当センターでは、将来の担い手である子どもたちの健やかな心を育む支援体制づくりを使命として、子どもこころの問題の支援に取り組む専門家の育成に向けて日々尽力して参りたく存じ上げます。

今後とも先生方のご指導、ご鞭撻を賜りますよう、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

### 金沢医科大学医学部総合内科学

教授 小林 淳 二(金沢大・昭59)



平成24年4月1日付で、金沢医科大学医学部総合内科学教授を拜命致しました。私は昭和59年3月金沢大学医学部を卒業後、同年4月吉田尚教授(現名誉教授)の主宰される千葉大学医学部第二内科に入局させて戴き、内科研修を行いました。その後、齋藤康講師(現学長)の主宰される脂質代謝研究室にて脂質異常症、動脈硬化症の研究を推進致しました。1989年に米国UCLA、1993年にNIHに留学させて戴き、主に脂質代謝の重要な酵素であるリポ蛋白リパーゼ(LPL)と肝性リパーゼ(HTLG)に関する研究をすすめました。UCLAではLPL欠損症の遺伝子解析、HTLG遺伝子のクローニングを、NIHではHTGL欠損マウスにadenovirusを用いたヒトHTGL遺伝子導入の手法を学びました。帰国後、1998年4月、千葉大学保健管

理センター兼第二内科助手を拜命し、千葉大学附属病院にて、脂質異常症の診療、LPLと内臓型肥満の関連性などに関する臨床研究を始める一方で、保健管理センター(当時)にて千葉大学の職員の方々、学生の検診に関わりました。その後、2003年に出身大学の金沢大学に大学院医学系研究科生活習慣病講座(寄附講座)が設置されるに伴い、その客員教授を拜命致しました。寄附講座では、特に運動や食事と代謝マーカー改善との関係のみ臨床研究をてがけました。その一方、共同研究を通して、金沢大学医学部第二内科動脈硬化研究室との連携を深めて参りました。2005年4月からは脂質研究講座(寄附講座)において馬淵宏教授のもと、症例から学ぶことの重要性を家族性高コレステロール血症という疾患を通して習得させていただきました。

このたび担当しております金沢医科大学総合内科学は漢方外来、女性総合診療外来、生活習慣病外来が統合されこの4月から新たに発足した部門です。今後、これまでに培った脂質異常症、生活習慣病に関する臨床研究を推進するとともに、診療において、他科の医師、コメディカルの方々との良好な人間関係、協働体制を確立し、やりがいがあると考える部署を構築致します。教育において、卒前、卒後教育で一人の患者を前にした時に病気を診るのではなくて患者さんという人間を

### 受章の挨拶

瑞宝中綬章

瑞宝中綬章に値するかどうか



吉川 武彦(昭36)

ホームページの「るのほなピックス」に、今春の叙勲者の名前が4名載っていました。私のものはありませんでした。大学に貢献もなかったから気づかれなかったのでしょうか、あらためて卒業後の50年を振り返るとそれも当然だと思います。(事務局のお手配により現在は掲載されておりません。)

診るといふ基本的なスタンスを強調して指導致します。そして、今後とも、これまでに私が研修医時代から長年にわたってお世話になつて参りました千葉大学のはな同窓会の先生方との絆を大切に参ります。なにもぶんに若輩、浅学の者ですが今後ともよろしくお願いいたします。

修了しましたが、大学院在学中から群馬県渋川市にある榛名病院で管理職をしていました。その後は長野県立駒ヶ根病院から国立下総療養所、国立精神衛生研究所と渡り歩き、さらに厚生省にも勤務しましたし国立国府台病院にも勤務しました。琉球大学の医学部づくりに飛んでいったかと思うと教育学部に招かれて障害児教育学科の主任教授を務めました。本土に戻り、東京都柏江保健相談所長をされたかと思うと東京都立中部総合精神保健福祉センター長に転じ、そこから古巣

の国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所の部長を務めたあと同センター武蔵病院のリハビリテーション部長をへてみたが精神保健研究所に戻り所長となりました。この間のことをやや自嘲的に「趣味は転勤」といつてきました。国立研究所の所長を最後に公務員生活に終止符を打ち、その後は岐阜県にあり、その後中部学院大学大学院教授を10年務めたあと、2011年4月から清泉女学院大学・清泉女学院短期大学の学長をしています。この間、一貫して精神障害者の医療やリハビリテーションに携わ

り、病院現場から地方行政の国行政のレベルや社会福祉法人理事長として精神障害者の地域生活支援に関わり続けてきました。このたびの褒章が、国立の研究所所長を務めたからというのではなく精神障害者のみならず知的障害者や認知症高齢者の地域生活支援への関わりを誉めていただいたものならば有り難くお受けしたいと思つた次第です。馴染み深い厚生労働省の2階の大広間で授章伝達を受けましたが、その席に同級生の横山健郎君と一緒にできたのは望外の喜びでした。

### 叙勲にあたって

瑞宝小綬章



長山 忠雄(昭38)

私は昭和38年に医学部を卒業し、インタインの後、大学院生として故百瀬剛一泌尿器科教授の薫陶を受け、大学院修了後は主に膀胱がんと凍結手術の研究・治療に携わりました。昭和47年11月に開院しました千葉県がんセンターに

は、現在の水準と比べると非常に稚拙なものであり、泌尿器科領域のがんに対する診断・手術方法・放射線治療・化学療法などに関する様々な新しい技術の開発に挑戦することが出来ました。また、緩和医療にも取り組み、第22回日本癌治療学会(昭和59年)では抵抗がありました。シンポジウム「末期癌患者のケア」をプログラム委員として企画し、これは学会の場が患者のケアが話題となった記念すべきシンポジウムでした。その後、麻酔科教授故水口公信先生達と共に千葉ターミナルケア研究会を設立、その他に日本死の臨床研究会、日本緩和医療学会、日本臨床死生学会などにも関わっております。全ての人

が回避出来ない死について考えることは、特に医療従事者には必要であると思いで今まで過ごしてきました。

ター協議会総会、千葉が  
国際シンポジウム、創立30  
周年事業などいろいろな経  
験をさせていただきました。

がんセンターの組織整備  
に関しては、懸案であった  
センター内禁煙、乳腺外科  
の独立、画像診断部の整備  
病院全体の退院登録の実施、  
輸血療法科の新設、凍結組  
織保存管理システム、院外  
処方・外来予約システムの  
導入、地域がん診療拠点病  
院の指定などを行うことが  
できました。施設整備では、  
外来化学療法室の増築、直  
線加速装置 (LINAC装置)  
の導入、緩和医療センター  
の開設などですが、これら  
は期せずしてがん診療連携  
拠点病院の指定要件であり  
先見の明があったと自負し  
ております。

定年後、第6回日本緩和  
医療学会を会長として幕張  
メッセで開催し、これを機  
に緩和医療は日本治療学  
会の一部門として認可され  
ました。日本臨床死生学会  
の理事長を今も続けており、  
また今年4月からは城西国  
際大学に新設された地域福  
祉・医療研究センターの所  
長として、医療関連の薬学  
部・福祉学部・看護学部の  
学内3学部横断的な教育・  
研修・研究の取り組みに関  
わることになりました。今

後健康が許される限り社会  
および千葉県に貢献して行  
きたいと願っております。

## るのほな同窓会賞 受賞によせて

学術賞

東京大学医科学研究所

疾患制御ゲノム医学ユニット

加藤 直也 (昭61)



この度は、栄誉あるの  
ほな同窓会学術賞を受ける  
ことになり、感激しており  
ます。テーマは、「ウイルス  
性肝炎と肝癌の病態解明と  
治療応用」です。私は千葉  
大学を昭和61年に卒業後、  
故奥田邦雄教授が主催され  
ていた第一内科に入局、小  
俣政男先生 (前東京大学消  
化器内科教授)、横須賀收先  
生 (現消化器・腎臓内科学  
教授) に手ほどきを受け、  
医学研究の道に進みました。  
当時発見されたばかりのC  
型肝炎の臨床と研究に従事  
し、C型肝炎ウイルスRNA  
の定性法および定量法を確

末筆になりましたが、の  
ほな同窓会のさらなる発  
展を期待いたしております。

立、インターフェロン治療  
効果がウイルス量に規定さ  
れることを初めて報告しま  
した。これらをまとめ、「血  
中C型肝炎ウイルスRNAの  
定性と定量」特にその臨床  
的有用性について」によ  
り、千葉大学にて学位を取  
得しました。1992年から国  
立がんセンター研究所にて  
C型肝炎ウイルス研究をさ  
らに発展させ、1993年に小俣  
教授主宰の東京大学第二内  
科 (現消化器内科) に入局、  
引き続きウイルス性肝炎、  
肝癌の臨床と研究に従事し  
てきました。この間C型肝炎  
ウイルス蛋白の機能解析  
を、炎症・発癌の観点から  
行いました。NS5A蛋白に  
転写活性化能があり、NS5B  
と結合しアポトーシスを阻  
害すること、コア蛋白が  
NFκB、MAP kinase、

→NS5Bの細胞内シグナル伝  
達系を活性化することなど  
を見出しました。これら研  
究によりC型肝炎ウイルス  
蛋白がC型肝炎における炎  
症や線維化・発癌に直接関  
連している可能性を示すこ  
とができました。最近では、  
C型肝炎ウイルスがインタ  
ーフェロンシステムから逃  
避する機構、NS5A RNA干  
渉を阻害し持続感染する機  
構など、C型肝炎ウイルス  
と自然免疫との関連につ  
き研究しています。B型肝炎  
に関しても、核酸アナログ  
治療の最大の問題点である  
耐性機序を解明し、耐性ウ  
イルスに対する新たな治療  
法を提唱することができま  
した。また、肝癌の網羅的  
遺伝子発現解析や発癌に寄  
与する宿主側因子の解析を  
行い、新たな治療法とその  
分子機序解明を行っていま  
す。昨年には、MICA遺伝  
子多型がC型肝炎のなりやす  
さに関連することを見出し、  
Nature Genetics誌に発  
表しました。現在、東京大  
学医科学研究所の特任准教  
授として、引き続きウイル  
ス性肝炎と肝癌の研究およ  
び臨床に励んでおります。

C型肝炎はプロテアーゼ阻  
害薬などの新たな抗ウイル  
ス薬が開発され、いよいよ  
全ての患者においてウイル  
ス駆除、すなわち治癒が目  
指せる将来が見えてきまし  
た。また、B型肝炎におい  
ては、ウイルス駆除には至  
らないものの、核酸アナロ  
グによりその増殖を確実に  
コントロール出来るようにな  
ってきました。私がウイ

ルス性肝炎の研究を開始し  
た頃から考えれば、感慨も  
ひとしおです。それでもし  
ばらくは肝癌の問題は残っ  
てしまいうです。これか  
らは肝炎のコントロールと  
は異なる肝発癌対策が必要  
と考えています。今後も本

受賞を励みに、今までの研  
究を一層発展させることが  
できるよう精進したいと存  
じます。最後になりました  
が、ご指導を賜りました小  
俣政男先生をはじめとする  
諸先生方に深謝致します。

## るのほな同窓会賞受賞候補者募集要項

第十八回(二〇一三年度)るのほな同窓会賞の受賞候補者を左記によ  
り募集いたします。

### 一、受賞対象者

#### ① 社会貢献賞

本会員で、医療活動の顕著な業績により、社会に  
高い貢献をした個人またはグループ。

#### ② 功労賞

医学および広く文化の各領域において、千葉大学  
および千葉大学るのほな同窓会に多大の貢献をし  
た者。

### 二、表彰

#### ① 社会貢献賞 (三件以内)

盾および賞金 (総額三十万円以内)  
を贈呈します。

#### ② 功労賞 (二件)

盾および賞金十万円を贈呈します。

### 三、応募方法

所定の申請用紙により、二〇一二年十二月一日から二〇一三年  
一月三十一日までに申請して下さい。

### 四、受賞者の決定

選考委員、常任理事会の議を経て、会長が行います。

審査結果は二〇一三年五月中頃までに各申請者に通知すると共  
に、るのほな同窓会報に掲載します。

### 五、問い合わせおよび申請用紙請求先

千葉大学医学部内、るのほな同窓会事務室

申請用紙は同窓会ホームページよりダウンロードすることが出  
来ます。

\* 規定改定について25面に掲載

学術賞

千葉大学大学院医学研究院

アレルギー・臨床免疫学

鈴木 浩太郎 (平6)



このたびは学術賞を受賞させていただきありがとうございます。わたしの略歴を記します。平成六年に千葉大学医学部を卒業し千葉大学医学部附属病院第二内科に入局。大学病院で一年間の研修の後、社会保険船橋中央病院、横浜労災病院で内科の研修を終えた後、平成十年より千葉大学大学院医学研究細胞治療学にて齋藤康教授の指導の下で、アレルギー疾患におけるエフェクター細胞である肥満細胞について研究を行いました。学位取得後、平成十六年よりアメリカカリフォルニア州ラホヤにあるソーク研究所に留学しYerna博士の指導の下で行った「肥満細胞脱顆粒機構の解明」に対して、今回学術賞をいただくことができました。

わたしのこれまでを振り返りますとどの職場にお

ても模範とするべき尊敬できる諸先生方に巡り会うことができた幸運に感謝せずにはおられません。船橋中央病院では櫻田正也先生に、横浜労災病院では西川哲男先生に、細胞治療学講座では、岩本逸夫先生、そして今でも引き続きご指導いただいている中島裕史先生に、たくさんのお話を学ばせていただきました。

医学はScienceであり、それに基づいた診断、治療でなければならぬこと。しかし、その背景には病気で苦しむ患者さんや心配するご家族への深い愛情がなければならぬこと。このような医師としてあるべき姿勢のようなものについて、先に挙げた先生たちと直接話したことはありません。しかし、隣でその働きぶりを拝見しているだけで、医療や研究に対する弛むことのない向上心、情熱といったものを肌で感じずにはいられなかったわけです。留学してそのような思いはさらに強いものとなりました。ソーク研究所は、Jonas

博士(1914-1995)により建立された研究所です。研究所のスローガンは、*"Where cures begin"*であり、すべての研究は患者さんを救うためのものでなければならぬというSalk博士の意志が今でも強く引き継がれています。Salk博士はポリオワクチンを開発したことで知られていますが、わたしの尊敬している点はそればかりではありません。Salk博士がワクチン開発の特許を放棄したおかげで今でも世界中の多くの子供たちがポリオの脅威から守られているのです。Salk研究所の一員であったことを今でも誇りに思っています。

このたび、栄えある賞をいただき嬉しいと同時に身が引き締まる思いです。Salk研究所には今でもSalk博士の言葉が刻まれています。*"Hope lies in dreams, in imagination, and in the courage of those who dare to make dreams into reality."*(希望は、夢を実現させようとする人の、夢、想像、勇氣、の中にある。)。今後もSalk博士の意志を忘れずに、アレルギー疾患、リウマチ性疾患制圧のために診療、研究を行っていきたいと思います。このたびはありがとうございます。



平成24年 春の叙勲  
旭日小綬章

藤森 宗徳 (昭37)

瑞宝中綬章

吉川 武彦 (昭36)  
横山 健郎 (昭36)

瑞宝小綬章

長山 忠雄 (昭38)

深尾 立 (昭39)

荒木 國興 (日本大・昭38)

### 平成24年千葉大学校友会総会

- 日時 10月27日 (土) 14時00分～
- 場所 千葉大学けやき会館大ホール (千葉大学西千葉キャンパス)
- 総会 14時00分～14時50分
- 講演会 (名誉教授懇談会と合同) 15時00分～16時20分
  - ①: 「千葉からアジアへ、アジアからアフリカへ —結核疫学調査と医療・対策の進展—」  
講師: 小野崎 郁 史 (世界保健機構STOP結核部メディカルオフィサー(ジュネーブ))
  - ②: 「長嶋学の創造」—長嶋VS野村— 学生はどちらを求めるか  
講師: 明 石 要 (千葉大学副理事(渉外担当)・教育学部教授)
- 在校生によるアトラクション (名誉教授懇談会と合同) 16時20分～16時40分
- 懇親会 (名誉教授懇談会と合同) 16時45分～18時15分
- 場所: 生協第一食堂 会費 5,000円

ひとつひとつの命を救いたい。ひとりひとりの健康にもっと貢献したい。

私たちMSDは、世界140カ国以上で、医療用医薬品、ワクチンなど、

革新的なヘルスケア・ソリューションを提供しています。



# 各地の は な 会 だより

## 栃木の は な 会 総会開催報告

平成24年1月24日(日)  
栃木の は な 会 は 宇 都 宮 市  
ホ テ ル ・ ニ ュ ー イ タ ヤ に て  
ゐ の は な 同 窓 会 ・ 伊 藤 晴 夫  
会 長 、 ゐ の は な 会 茨 城 県 支  
部 ・ 測 上 隆 代 表 、 群 馬 の  
は な 会 ・ 鈴 木 守 会 長 、 東 京  
ゐ の は な 会 ・ 済 陽 高 穂 会 長  
を 御 迎 え し 盛 大 に 開 催 さ れ  
た。

特別講演は「最新の子宮  
がん予防薬について」と題  
して、獨協医科大学産婦人  
科教授深澤一雄先生に戴き、  
また獨協医科大学学長稲葉  
憲之先生にコメントを戴き  
ました。続く懇親会では「T  
P P と 医 療 問 題 に つ い て 」  
と「今後の健康保険制度」  
などに関して話題がもたら  
がった。

P M 6 : 0 0 、 来 年 度 での  
再 開 を 約 し て 中 締 め を し ま  
した。

### 写真右から

前 列 ・ 糸 井 久 雄 ( 昭 2 6 ) 、 大  
井 利 夫 ( 昭 3 5 ) 、 柴 崎 晃 ( 昭  
2 8 ) 、 伊 藤 晴 夫 ( 昭 3 9 ) 、 坂  
田 早 苗 ( 昭 3 4 ) 、 淵 上 隆 ( 昭

3 6 ) 、 鈴 木 守 ( 昭 3 9 ) 、 済 陽  
高 穂 ( 昭 4 5 )  
二 列 目 ・ 杉 田 敏 夫 ( 昭 5 0 ) 、  
布 川 武 男 ( 昭 3 2 ) 、 本 多 陸 人  
( 昭 4 2 ) 、 松 岡 明 ( 昭 5 2 ) 、 早  
乙 女 勇 ( 昭 4 8 ) 、 星 野 聰 ( 昭  
4 3 ) 、 稲 葉 憲 之 ( 昭 4 7 ) 、 上  
山 滋 太 郎 ( 昭 3 3 ) 、 斎 藤 弘 司  
( 昭 4 3 ) 、 深 澤 一 雄 ( 昭 5 5 )  
後 列 ・ 門 馬 公 経 ( 昭 4 2 ) 、 高  
原 正 信 ( 昭 5 7 ) 、 山 崎 一 馬  
( 昭 5 1 ) 、 須 田 啓 一 ( 昭 5 2 ) 、  
十 川 康 弘 ( 昭 5 5 ) 、 大 宮 安 紀  
彦 ( 昭 5 3 ) 、 大 内 聡 ( 昭 6 3 ) 、  
山 西 友 典 ( 昭 5 7 ) 、 長 井 千 輔  
( 昭 5 0 ) 、 戸 邊 豊 総 ( 旭 川 医



大 ・ 平 元 ) 、 森 偉 久 夫 ( 昭  
5 1 ) 、 岩 本 容 武 ( 平 5 ) 、 崎  
尾 秀 彰 ( 昭 4 4 ) 、 貝 淵 俊 光  
( 平 5 )  
( 大 宮 安 紀 彦 )

## 安房の は な 会

平成24年3月8日(木)  
午後7時より、安房の は  
な 会 学 術 講 演 会 が 、 南 房 総  
富 浦 口 イ ヤ ル ホ テ ル に 於 て  
開 催 さ れ ま し た 。 安 房 の  
は な 会 会 長 ・ 青 木 謹 先 生 よ  
り 、 会 員 の 親 睦 ・ 交 流 を 深  
め よ う と い う 御 発 案 が あ り  
、 今 年 度 よ り 定 例 総 会 の 他 に  
学 術 講 演 会 を 開 催 す る こ と  
と な り 、 記 念 す べ き 第 1 回  
目 の 講 演 会 と な り ま し た 。

今 回 は 、 亀 田 総 合 病 院 神 經  
内 科 部 長 ・ 福 武 敏 夫 先 生 を  
お 迎 え し て 行 わ れ ま し た 。

福 武 先 生 に は 、 渡 辺 啓 治  
先 生 の 座 長 で 、 「 Dementia  
( 認 知 症 ) の 臨 床 」 と 題 し て  
御 講 演 を い た だ き ま し た 。

先 生 の 長 年 に 亘 る 臨 床 経 験  
を も と に 、 認 知 症 の 診 断 か  
ら 治 療 ま で 、 門 外 漢 の 自 分  
で も わ か る よ う に 、 実 例 を  
挙 げ て 説 明 し て 下 さ い ま し  
た 。 特 に 印 象 に 残 っ た の は 、  
現 在 の 記 憶 障 害 が 元 で 、 過  
去 の 記 憶 に 沿 っ て 行 動 し よ  
う と す る た め に 、 怒 り や 戸  
惑 い 、 意 味 不 明 な 言 動 を す

る と い う こ と で す 。 そ の 記  
憶 障 害 が 改 善 す る と 、 患 者  
が 怒 ら な く な り 介 護 が 楽 に  
な る が 、 認 知 症 そ の も の は  
改 善 し な い そ う で す 。 会 場  
か ら も 多 く の 質 問 が あ り 、  
少 人 数 な が ら も 活 気 の あ る  
講 演 会 で し た 。



が り 、 大 い に 親 睦 を 深 め た  
一 日 と な り ま し た 。

写 真 右 か ら  
前 列 ・ 青 木 謹 ( 昭 3 6 ) 、 本 多  
満 ( 昭 3 7 ) 、 原 久 彌 ( 昭 3 4 ) 、  
福 武 敏 夫 ( 昭 5 6 ) 、 本 位 田 泰  
介 ( 昭 2 8 ) 、 佐 伯 陳 哉 ( 昭  
3 5 ) 、 関 谷 信 平 ( 昭 3 8 )  
後 列 ・ 辻 博 勝 ( 平 2 ) 、 武 内  
重 樹 ( 北 里 ・ 昭 5 3 ) 、 林 宗 寛  
( 昭 6 0 ) 、 伊 賀 寧 ( 聖 マ リ ・  
平 2 ) 、 渡 辺 啓 治 ( 昭 6 1 ) 、  
水 谷 正 彦 ( 昭 5 2 ) 、 天 野 晋  
( 平 3 ) 、 相 正 人 ( 島 根 ・ 平  
9 )  
( 辻 博 勝 )

## 松戸の は な 会

平成24年3月10日(土)、  
平成23年度松戸の は な 会  
は 千 葉 大 学 医 学 研 究 院 病 原  
分 子 制 御 学 教 授 の 野 田 公 俊  
先 生 を お 招 き し 、 「 ミ ク ロ の  
世 界 か ら の メ ッ セ ー ジ 」 と  
題 す る 御 講 演 を し て い た だ  
き ま し た 。 野 田 教 授 は 、 平  
成 1 6 年 度 か ら 全 国 の 小 学  
生 ・ 中 学 生 ・ 高 校 生 を 対 象  
と し て 、 同 題 名 の 出 張 講 演  
( 無 料 ) を な さ っ て い る と の  
こ と で 、 こ れ ま で の 受 講 生  
は 2 5 0 校 5 万 5 千 人 を 超 え る  
そ う で す ( 平 成 2 3 年 1 2 月 現  
在 ) 。

松 戸 の は な 会 で は 「 中  
学 生 向 け 講 演 」 を し て 頂 く

ようお願ひ致しました。細菌・ウイルス・酵母・カビなどの微生物(ミクロの世界)がヒトの生活にどのように係わっているのかや、彼らのメッセージへの対応を誤ると生命が脅かされる事態を招くことなどをわかりやすく丁寧に解説して頂きました。

会員の大半は学生時代以来接したことのない微生物学のレクチャーに、時の経つのを忘れて引き込まれて行ったようです。教授からの突然の質問に戸惑ったりもしましたが、忘れていたことを思い出したり新しい知識を習得したりなど心地よい学習の時間を過ごすことができました。小中高校生が理科分野に関心と驚きをもつためにはearly expoなどが大切であるとの野田教授の思いがよく伝わる講義でした。

専門的な事をわかりやすく解説するという野田教授の話法を、私どもが患者さんに病状を説明する際に活かしています。

第13巻(平成23年度)まで手作りであった「松戸のものはな会報」を第14巻(平成24年度)より冊子に切り替える予定です。なお、現在の役員は次の通りです。会長・小野和則(昭51)、副

会長・石島秀紀(昭60)・飯田哲(昭62)、幹事・田代淳(昭60)・青木俊郎(昭63)・武田直己(平2)

写真右から  
前列・香西襄(昭38)、篠原寛休(昭35)、野田公俊教授、植村研一(昭34)、小野和則(昭51)、渡辺寛(昭41)

後列・澁谷潔(昭61)、田代淳(昭60)、堂垂伸治(昭60)、石島秀紀(昭60)、北野邦孝(昭46)、篠塚正彦

(昭51)、武田直己(平2)、藤塚光慶(昭43)、大塚薫(昭47)、小林伸行(昭41)、山口卓秀(昭57)、宮本茂樹(昭51)、木村亮(昭57)、岩井直路(昭57)、青木俊郎(昭63)、島田薫(昭57)、齊藤丈夫(昭61)

撮影時不在・菊地浩之(昭61)  
(於：聖徳大学10号館12Fセレネ)  
(小野和則)



江戸川のものはな会  
総会開催

5月19日(土)、「平成24年度江戸川のものはな会総会」が墨田区の東武ホテルバント東京「蓬菜」にて開かれ、天気にも恵まれ13名出席の盛会となりました。

最初の講演は、千葉大学大学院医学研究院放射線科、宇野隆教授より「放射線治療の進歩と今後」の講演を

頂きました。日々進化する放射線治療の最新の情報を知ることができ、日常の診療に非常に役立つお話でした。

次いで、東邦大学医療センター・佐倉病院整形外科、中川晃一教授より「関節炎の治療に関する最新の話題」の講演を頂きました。リウマチ疾患の新しい知見や膝関節の治療は日進月歩を感じました。

総会は、小野健次郎先生

(昭39)の挨拶に始まり、平成23年度の収支報告と円滑に進行し、無事終了しました。

その後、懇親会へと移り歓談しました。

写真右から  
前列・伊谷昭幸(昭30)、藤山嘉信(昭30)、宇野隆(昭63)、中川晃一(平2)、小野健次郎(昭39)、一志典夫(専25)、秋田徹(昭51)

後列・竹内孝治(平3)、森照男(昭53)、宮澤浩(昭63)、岡本和久(平2)、松尾直樹(平8)、岡田吉弘(平2)、小島博之(平3)、道下崇史(平15)  
(岡本和久)

君津木更津のものはな会  
平成24年度総会報告

平成24年5月30日木更津市の東京ベイプラザホテルで地区同窓会の年次総会が開催された。当地区は110名の会員を数えるが、今回は38名の出席をみた。

まず会長の松清央先生(昭43)から挨拶があり、昨年ご逝去された葛田瑞世先生(昭25)、元医師会長 鹿間敏夫先生(慈恵医大・昭29)に黙祷を捧げた。続いて事業報告、会計報告、会員の動向報告がなされた。

地区医師会から青柳博会長(昭49)が、一般社団法人化に向かって舵を切ったことを報告した。また会員の北村伸哉が会長をし、本年度当地で開催される日本航空医療学会に対して寄付、協力することが決議された。

講演会には放射線医学の教授になられた宇野隆先生においでいただき、「放射線治療の進歩と今後」の御講演を頂いた。照射野をより精緻にしてきた歴史、3D

照射から4D照射への進歩をお聞かせ頂いた。これからも理工学と医学の協力の分野において千葉大学のこれからの発展が確信された。

懇親会は、会員以外の研修医や若い医師にもたくさん参加して頂き、当地の長老会員の葉丸比呂志先生(昭16)の大変矍鑠たる乾杯で和やかに行われた。その後木更津の夜の街に繰り出し旧交を温め、医療の問題や人生感について熱く語り合った。

写真右から  
前列・土屋俊一(金沢・昭51)、鈴木紀彰(昭50)、磯部勝見(横浜市・昭43)、福山悦男(昭36)、神田勝夫(昭22)、葉丸比呂志(昭16)、宇野隆(昭63)、松清央(昭43)、青柳博(昭49)、片海七郎(東邦大・昭40)、田中

地区医師会から青柳博会長(昭49)が、一般社団法人化に向かって舵を切ったことを報告した。また会員の北村伸哉が会長をし、本年度当地で開催される日本航空医療学会に対して寄付、協力することが決議された。



寿一(昭43)  
二列目：太田正志(熊本大・平6)、岡陽一(昭56)、須田純夫(昭52)、永島薫(昭56)、畦元亮作(昭58)、氷見壽治(昭55)、藤巻春香(平23)、米浦直子(群馬大・平18)、栗田健郎(平23)、諏訪部信一(平3)

三列目：吉田明弘(昭44)、渡部良夫(昭63)、山田慎一(平7)、佐田諭巳(大分大・平23)、柳澤真司(昭60)、清水弘則(平4)、清水わか子(昭62)、遠藤博久(昭61)、北村伸哉(平元)

後列：李元浩(昭53)、平田貴(昭59)、山本健介(昭44)、島居傑(平20)、林洋輔(平23)、河木潤(島根大・平3)、鮎沢清一(北里・平元)、竹内修(東海大・昭61)、山口敏広(北里大・昭54) (岡陽一)

いすみるのはな会

庭樹萎びるばかりの炎威の中、平成24年文月29日(日)の午後4時より、南外房に位置して居るいすみ地区医師会員の第一回目となる「みのはな同窓会」を大原の割烹伝九郎で発足開催致しました。

いすみ医師会には約20名ほどの同窓会員が所属しておりますが、今回は7名の参加でありました。

まず始めに開催を大変楽しみにしておられたにもかかわらず、寧日なく御活躍下さって黄泉の国に召された鈴木一郎先生(昭24) 森川二郎先生(昭25)の冥福を祈り、黙祷をささげました。

中村一也先生の御発声で乾杯し、暑さに負けず皆で大いに飲み食べて、とても楽しいひとときを過ごすことができました。中嶋弘道先生の中締めのもと、殆どどの先生方が二次会に参



加され、歌と踊りで熱帯夜であることを忘れるほどでした。  
発起人の一人である井出勝康先生(昭40)は、当日体調をくずされて欠席になりましたが、第二回以降はもう少し涼しい時期に開催しましょう、ということでした。  
今回は必ずしも全員の先生には声をかけられなかったため、次回は全員の先生に声をかけたいと思っております。

写真右から  
前列：山本和男(鳥取大・昭62)、中村一也(慶応大・昭22)、赤松徹(昭48)、中嶋弘道(昭43)  
後列：土屋博(旭川医大・平7)、木元博史(昭61)、坂中進(平元) (坂中進)



クラス会

卒後60周年記念クラス会 (昭28)

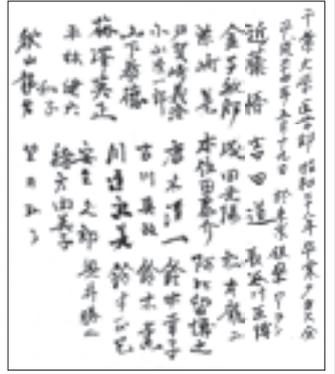
昭和28年千葉大学医学部卒業クラス会を平成24年5月19日、東京銀座ローランで開催した。  
早いもので卒業後60年を迎えることになった。同級

生は大方80歳なかばになり、病床にある者、物故者も47名を数えることになった。同伴者・物故者の家族を含めて27名の参加があった。金子敏郎君の開会の挨拶、物故者に黙祷を捧げ、各自近況報告をして盛会であった。  
次会は戸賀崎・近藤・松本君等が幹事に横浜で開く事を決め閉会した。

爾久会 (昭29)

毎年一回クラスの会を続けていますが、今年は6月16日エドモンドホテルで起こないました。天気予報は激しい雨というので困ったことと心配しましたが、予定どおり18名とご婦人2名集まりました。

まず昨年来逝去された竹内信輝、大藤正雄の両君、および一年上の窪田靖夫先生(窪田叔子君の夫君)のご冥福を祈り黙祷し、ついで本日最年長の永瀬君の開会の辞から会が始まりました。傘寿を超した全員も何らかの仕事をしており、爾久会の活力が示されたところ。残念なのは、注文の酒があまっており、酒量減少でした。来年の再開を期し、数名の寮歌ののち最若年の和夫君の言葉で閉会となりました。



卒後60周年記念クラス会(昭28)出席者の寄書き

(幹事)金子敏郎、戸賀崎義治、奥井勝二

写真右から 前列:福島通夫、中島哲一、



永瀬敏行、永瀬夫人、中野夫人、窪田叔子、鈴木日出和、佐野迪雄  
二列目:山森喬夫、中野練一、大津正典、荒木晃、佐藤忠夫、渡辺四郎、野口晃平  
後列:和田房治、大原一夫、奥平昌彦、根本幸一、島崎淳  
(島崎 淳)

山紫会 卒業52周年 (昭34)

平成24年3月25日御茶ノ水銀座アスターで開催された(昼食会)。平成21年11月に卒業50周年記念の山紫会を開催した後、22年度内には51周年の会を開催の予定で23年3月13日東京ガーデンパレスと決めて32名の出席連絡があつた。しかし、直前の11日に東日本大震災が発生して中止となり、改めて幹事の長尾佳子さん、松本博雄君、吉井勇君、谷嶋俊雄君、神田芳郎君により開催された。

今回の参加者は31名であつた。この間残念な事に関泰男君、長山浩二君が逝去され、全員で黙祷を捧げた。皆喜寿を超える年齢となり、現役を退いてこれまでは違つた人生を楽しむ人も増えている。

今回は長尾さんと谷嶋君の発案でニューヨーク在住の華文鑑君が主役。(スカイプ)という衛星通信を介して参加、時差を調整して深夜の参加は大変だったと思われるが久しぶりにみんなと顔を合わせておしゃべりし、こちらの会の楽しい雰囲気も十分に伝わった様



子だった。次回は新しい開催地で開催の予定。  
写真右から  
前列:谷嶋俊雄、塩川喜之、三浦光彦、藤田昌宏、横山哲夫、清水順三郎、松本博雄、津金澤督雄、植田伸夫、松原保、飯田静夫  
後列:片山純男、吉井功、横山宏、田口勝、野口徹男、

永井順、植村研一、神田芳郎、高木良章、遠藤幸男、清水精子、吉川保雄、長尾佳子、飯田暢子、高橋功、小林充尚、荒木英爾、山本成元、赤星至朗、矢野柁多  
(飯田静夫)

ゐのはな37会 卒後50周年記念 クラス会報告 (昭37)

今年には猪鼻山の医学部を卒業して50周年を迎えたので、1年に1度の逢瀬七夕に縁起を担ぎ卒後50周年記念クラス会を恒例の帝国ホテル扇の間で開催した。足元が明るい内にと幹事の配慮で午後1時の開会としたが、返信のコメントで、未だ診療時間内なので、休診しての参加は出来ず、と数人にお叱りを受けた。殆どが後期高齢者なので、連日休日か午前診療かと早とちりした幹事が早計だったと反省、来年は休日昼間としよう。記念会として、早めに案内状を出した割には少なく59名中30名の参加であつた。事前にゐのはな同窓会事務局より、今年度から卒後50年生各自に卒後50周年記念メダルと感謝状が贈呈されるとの連絡を受けたので、復信のない会員にはその旨を伝える案内状を1ヶ月前に再送したが、反応は数字が示す通りであつた。診療で2名遅刻でしたが、祝賀に来られたゐのはな同窓会理事の田邊政裕教授を囲み集合写真撮影後、幹事

杉岡の司会で開会、ゐのはな同窓会からの卒業50周年感謝状と記念メダルの件の経緯と返信のあつた全員のコメント・ファイルを提示し出席報告、昨年の会計報告後、無念にも卒業50周年を迎えず幽明境を異にした16名の物故会員を偲び黙

田邊教授が次ぎに会議予定があるとのことで、ゐのはな同窓会からの賀状、記念メダル贈呈式を前倒し、石山淳一君が代表して拝受した。感謝状の文面「前文略、千葉大学医学部ゐのはな同窓会の発展に寄与されました。ここに永年の功績を讃えるときに深く感謝の意を表します」会長伊藤晴夫。わが身を省みてこの感謝状に相応しいか赤面の至りで恐縮至極である。

記念メダルは田邊教授の解説によると「千葉医学」の伝統である「獅胆鷹目行以女手」を図案化した獅子と鷹と赤いハートを女性の優しい両手で支えているものである。このメダルに習い、女手でのシャンパン乾杯を！との掛け声あり、本日の紅2点の中、茅ヶ崎からの矢野靖子さんの乾杯発声で祝賀懇親会へ、以後、進行役は幹事岩倉君が担当、各自、現況、来し方行く末

の3分厳守のスピーチで、生涯現役、医師定年、悠々？自適、晴耕雨読、ガンや生活習慣病と共存・天職続行、新医学書再読、地域社会へボランティア、原発事故被曝者医療へ余生を、などなど大いに吹き放題、盛り上がった。岩倉座長の巧き裁量にて2時間半ピタリで開き、感謝状と記念メダルに速現の集合写真を手に流れ散会とした。加齢と帰路を考慮して2次会は設定せず、アフター・フォーは各自、自己責任にてお願いした。

今回、ゐのはな同窓会役員方の企画実行された卒業50周年記念事業のご高配に深謝申し上げますと共に事前に出席者分周到に準備配送して頂いた事務局の清水様にお礼申し上げます。半世紀以上前、多くのキラ星のように輝く名物教授に良き薫陶を受けた千葉医学シユレ不肖？のゐのはな37クラスとして、今回の事業により、筆者のみならず誰もが卒業時の千葉医学の原点に帰り、愛学心、母校愛を鼓舞されたと思う。急速、千葉大学医学部135周年記念事業に謝礼の意を込めて、参加者の賛同を得て、その場で協賛をしましたことを付記いたします。

写真右から



前列：杉岡昌明、中山博、奥山隆保、宍倉正胤、田邊教授、矢野靖子、油井真知子、岩倉弘毅  
二列目：石山淳一、黒岩璋光、土井修、福士和夫、十林賢児、中村嘉孝、伊東治武  
三列目：勝田貞夫、本多満、瀬川襄、小野幸雄、大原啓介、油井信春  
四列目：砂倉瑞良、高梨健治、柳澤健一郎、満野博章、伊藤文雄  
最後列：大野孝則、高井満、

松江寛人（小林總介、山根友二郎は診療にて集合写真撮影に間に合わず）  
（杉岡昌明）  
\*記念メダル関連記事は17面に掲載  
参旧会 2012年（昭39）  
開港150周年の余韻に浸る横浜市で、5月12、13日の両日、2012年度の参旧会は開催されました。昭和39年と

いえば東京オリンピックの年、60年安保が一段落し、高度成長が緒に就いた頃で、医学界ではやがて来る医局改革の嵐の先駆けとなったインターン廃止運動が始まった年でした。

出席者数は36（うち梅ちゃん先生は4）名で、48年前の卒業生85名の42%に相当します。これに14名の奥様達が参加されましたので、総数は50名に達しました。

当夜の宿となるニューグランドホテルに、ひとまずチェックインした後、向かいの山下公園の埠頭に移動し、往時、シアトル航路に就航し、廃船後は資料館として岸壁に係留されている氷川丸をバックに記念撮影をすることから、行事は始まりました。

浜風が心地好く、折からの西日に照らされて、参加者の頬は、一年振りの再会に紅潮していました。

競争社会を生き抜き、10年程前に現役を退き、第二の人生を謳歌している元大

学教授や病院要職者、跡目相続を終えてなお、医療の最前線に留まり、奮闘している一國一城の主、歩んだ道は異なっても、皆一様に功成り名を遂げた安堵感と満足感を漂わせていました。横浜中華街の大通りに面し

た満珍楼が宴会会場で、冒頭に、清水天君の叙勲の祝賀と、2名の物故会員（瓜生東一君、本間誠君）に黙祷を捧げた後、会次第に入りました。

古希も過ぎ、もう少しで

後期高齢者に達しようとする老人達の話題が、もはや世俗の手柄話などではなく、お互いの健康問題であるのは理の当然で、この夜の発言の多くが闊病談でした。悪性腫瘍を排除し、生活習



慣病を克服し、ロコモ(運動器症候群)と付き合い、物忘れと戦いながら、一堂に会した旧友の姿、お互いを大いに勇気付け合いました。

その筆頭が富岡玖夫君で、脳梗塞を患い、再起が危ぶまれたにも拘らず、奇跡の復活を遂げ、6年振りに、常任幹事、崎山樹君介添えの車格子で、この日ははるばる市川から、タクシーをとばして駆け付けてくれ、乾杯の音頭を取ってくれました。

現ものはな同窓会長を擁することが我が参旧会のご自慢ですが、伊藤晴夫君から同窓会館リニューアルに関する内輪話、その他をたっぷり聞くことが出来ました。

翌日の午前は自由時間で、中華街でショッピングする者、ベイエリアを散策し、赤レンガ倉庫や大桟橋に足を延ばす者、ホテルで昨夜の話の続きをする者と様々でした。

午後はマリーンルージュ号によるランチクルーズでした。船がベイブリッジをくぐり湾外に滑り出た頃、食事を済ませて、三々五々展望デッキに出ましたが、彼方に平坦に連なる房総半島と鋸山の刃形が臨め、千葉を離れた会員達は、しば

し望郷の念に駆られました。灘高卒が幹事となり、神戸で開かれる来年の、卒後49周年の会を楽しみに、家路に付きましました。

写真右から

前列：山本夫人、角張夫人、万本夫人、小野夫人、富岡玖夫、重松夫人、塚田夫人、山口夫人、宍戸夫人、永山(奥野)恵美子、碓井貞仁  
二列目：三浦夫人、深尾夫人、三浦徹蔵、高根夫人、角張雄二、上原朗、山下(竹内)明美、本村八恵子、川西(吉田)恭子、遠藤毅、高根健、河野守正、村上信乃、大塚嘉則、宍戸英雄、塚田正男

三列目：山本弘、木内政寛、滝沢和彦、清水夫人、伊藤晴夫、山下武広、根岸敬矩、小野健次郎  
四列目：深尾立、坂田晃康、万本盛三、飯田義信、林學、清水天、栗林士郎、山口正敏、崎山樹、重松秀一 (山本 弘)

ちよに会

(昭42)

6月3日(日)の昼下がりに、平成24年度の「ちよに会」を開催しました。会場はアクセスの良さを考慮して、前回と同様、東京タワ

ー真下にあるとうふ屋「うかい」です。水辺の花が美しく彩る庭先で、みなさんをひとりずつ力強い握手で迎えることができました。

禿頭や白髪の前進した友は数多く、少し足元のおぼつかない友もいる。しかし、皆、昔の面影を残す英知あふれる笑顔を持ち、卒後45年の風雪に耐えた堂々たる風格に満ちていました。おかげさまで36名という多数の方々に参加され、愛媛県、栃木県、浜松市、つくば市など遠方からも久しぶりに懐かしい顔ぶれがそろいました。開会に先立ち今回は他界された同級生のないことを確認し、ついで昨年幹事の伊藤君からの会計を報告し、また昨春秋に小柳(楊)君によって開かれた「ちよに会」有志の会(台湾の客家料理)の盛況ぶりを報告した。つづいて守屋総幹事の音頭で乾杯し大宴会がスタートした。みなさん

身体のことを憂慮されているせいか、ビールやお酒よりもウーロン茶の注文が多いのには驚きです。宴たけなわの合間をぬって、恒例に従い、出席者全員からそれぞれ近況を語ってもらいました。まだ現役の第一線で医療を続けており、仕事の現状や成果を熱っぽく

語る友が多い一方で、健康を害した時に同級生の的確な診断や紹介によりとても良い結果が得られたと感謝している友も少なくありません。また厳しい医療の現場から引退し穏やかな日々を楽しんでいる友や、ゴルフ・ガーデンングなどの趣味を披露する友など多種多様な人生が垣間見られ、卒

業後の長い歳月と人間模様の深さを実感しました。そんな中、龍野君が朗々たる声量で「千葉大学学歌」(若い空 若い土...)を歌い、太田君は口笛の演奏を披露され、なごやかな雰囲気を作ってくれました。和気あいあいの2時間30分があつという間に過ぎ、次回幹事の森田・小柳君から来



年6月2日(日)に同じ会場で開催する旨を報告してもらい、最後にみんなで抒情歌「夏の思い出」を合唱してお開きとなりました。

写真右から

前列：河野泉、冠木敦子、能勢晴美、番場菊、高橋稔、板谷喬起、更科廣實、龍野勝彦、田中弘一、関三千代、小柳朝明  
二列目：中村謙介、高部吉庸、内藤準哉、守屋秀繁、大沼直躬、関隆郎、遠藤保利、小林茂雄、森田喜崇子、太田東吾  
後列：福田武隼、高崎健、高橋弘昭、谷口克、勝俣剛志、森田清、吉野紘正、牧野英一、西牟田敏之、宮本忠昭、片倉透、伊藤達雄、本多陸人、忍頂寺紀彰

訃報：闘病生活を続けていた牧邁君が6月10日に逝去されました。謹んでご冥福をお祈りいたします。(更科廣實)

郷土会

(昭54)

平成24年4月28日東京駅近くの丸の内トラストタワー1内「過門香」にて、郷土会(昭和48年入学or54年卒業)を開催した。今回は、4月に千葉大学総合安全衛

生管理機構長に就任した今関文夫君の祝いも兼ねて行った。郷土会会長の巽浩一郎君の開会挨拶後、参加者中年長者の嶋田耿子さんの乾杯で会は始まった。すでに日本医師会常任理事に就任している石川広巳君や帝京大学病理学教授の近藤福雄君を祝うこともでき、参加者全員が喜びの時間を過ごした。何と総勢35名と連休直前の土曜にしては、同期の桜が数多く参集した。誰もが意気軒高で、気持ちだけでも春満開の雰囲気になりました。中華料理と飲み放題のお酒、勝手気ままなおしゃべりなど宴たけなわの中で、遠来者の話も聞くことができた。「ゆとり教育」を受けてきた医学生で困っている稲葉英夫君(金沢大学)、生氣活発な難波宏樹君(浜松大学)、東京に出てくるのがめっきり減ったと嘆く鶴田好孝君(山梨県開業)など多くの同級生が近況を語るなかで、時間がたつのも忘れる楽しい会であった。今回は幸い新たな物故者もなく、次回も元気に再開できることを願うところである。古関啓二郎君の三本締めで閉会とした。なお飲み足りない(話し足りない)連中で、2次会も多いに盛り上がったこのこ



とである。今回は多くの  
 核が還暦前後になる頃、  
 隅田川花火見物に合わせ開  
 催したいものである。  
 写真右から  
 前列：杉田克生、桜山由利、  
 萬伸子、嶋田耿子、今関文  
 夫、角南祐子、巽浩一郎、  
 難波宏樹、稲葉英夫  
 二列目：巷岡博、石川広巳、

近藤福雄、古関啓二郎、篠  
 遠仁、沼田勉、軍司祥雄  
 三列目：五十嵐忠彦、桜山  
 豊夫、青柳裕、斎藤博明、  
 鈴木良一、今井均、鶴田好  
 孝、西山秀木  
 四列目：内山勝弘、宮本恒  
 彦、田川雅敏、梶川工  
 後列：杉浦信之、永瀬裕三、  
 栗原正利、下条直樹、龍岡



写真1 (昭57)

平成24年2月11日(土)  
 に卒後30周年を記念して昭

卒後30周年記念クラス会  
 (昭57)

穂積、齋藤正仁(なお後方  
 は列が不整ならびに逆光で  
 写真不明瞭、小林繁樹君は  
 途中退席)  
 (杉田克生)

和57年卒クラス会を日本橋  
 のサリュ・コパンで開催し  
 ました。  
 クラス会は、平成13年以  
 来久しぶりであるというこ  
 ともあり、過去のクラス会  
 で最高の60名が参加しまし  
 た。久しぶりの対面で顔を  
 思い出すのに時間を要する  
 同級生もいましたが、いつ  
 の間にか学生時代に戻り、  
 各自の近況報告に時間も忘



写真2 (昭57)

れ瞬く間に時が経ち楽しい  
 一時を過ごしました。  
 10年後の40周年記念クラ  
 ス会を必ず開催することを  
 約して閉会となりました。  
 写真1右から  
 前列：川島利彦、龍野一郎、  
 岩井直路、江石清行、木村  
 文夫、小野直美、村松千鶴  
 子、稲次潤子、ピアス洋子、  
 角谷明子  
 後列：木下由彦、斎藤幸雄、

瀧澤史佳、下山直人、鳥谷  
 博英、板橋孝、小沢義典、  
 小川真、高野進、白澤浩  
 石津谷義昭、小森功夫、唐  
 木章夫、高原正信、大澤一  
 仁、天野穂高  
 写真2右から  
 前列：丹野隆明、櫻田美江  
 子、松本玲子、島田薫、吉  
 田康秀、難波清、守月るみ  
 子、和久真一、永田博史、  
 松島常、鈴木康子

後列：豊泉惣一郎、小田秀  
 明、丸山尚嗣、幡野雅彦、  
 土屋広明、村松正明、渡辺  
 泰、吉野克正、三浦巧、中  
 村清吾、福澤茂、矢島鉄也、  
 西沢延宏、山本恭平、角田  
 隆文、中沢功、守月理、山  
 西友典、古川敬芳、山口卓  
 秀、安原一彰  
 (写真外) 山本達郎、粒良幸  
 正。  
 (白澤 浩)

昭和62年卒  
 クラス会

学生時代から「長老」と  
 呼ばれていた佐藤直秀さん  
 の呼びかけで卒業25周年記  
 念クラス会が2012年6月2日  
 (土) 15時、京成ホテルミラ  
 マーレで開かれました。卒  
 業生112名のうち高柳(旧姓  
 奥田)さんは仙台から、伊  
 佐さんは沖繩から駆け付け  
 るなど58名の懐かしい顔が  
 集まりました。クラス会は  
 長老の司会で進められ、亡  
 くなった2名の仲間、加藤  
 敬さん、松本忠男さんへの  
 黙祷から始まりました。そ  
 のあとは順番に近況報告を  
 行いました。学生時代と変  
 わらず若々しいパパの雰囲気  
 のままの青柳さん、大  
 分貫緑が出た小林さん、ブ  
 レインの雰囲気そのままの

清水さん、欠席しているのに話題の中心となってしまう菅谷さんなど仕事のことや家族のことなど楽しい話や困った話で盛り上がりました。学生のころには日中ほとんど会ったことがない人もいました。やはり6年間を共に過ごした仲間、みんな仲良くやってきたんだなあとアラフィフ?になった今、改めて感じました。私たちの頃はストレート研修に進む人が多かったため卒業10年間ぐらいは千葉大関連病院などでなんとなくつながっている人が多かったのですが、さすがに25年経つとより広い範囲に散らばり、会う機会も少なくなってきました。私は現在千葉大学で医学部の学生教育を担当していますが、先日10人ぐらいの6年生とピアガーデンに行ったとき学生たちが「卒業したらこのメンバーで会うことは2度とないよね。」と話しているのを聞いて、初期研修のため卒業すぐに全国にバラバラに旅立っていつてしまう現在のシステムでは同期会はまた違ってくるんだらうなと感じました。クラス会の後は女子会主催のカラオケに男子会も合流しました。女子はその後泊り女子会で朝までおしゃべりでスト



レス発散しました。今回は、長老の人望のおかげもあり多くの人数が集まり楽しく過ごすことができました。次回もよろしく。

写真右から

- 前列：清水わか子、高柳玲子（奥田）、川村真代（飯塚）、朝比奈真由美（金子）、佐藤直秀、秋元英里、橘川志延（大場）、今井美絵（嶋）、坂本明美（牛島）
- 二列目：伊野宮秀志、森永達夫、伊佐真之、一瀬雅典、安原晃一、加藤大介、遊座潤、外川明、二宮栄一郎、国行洋史、佐々木一
- 三列目：青柳正彦、三枝敬史、小山秀彦、北靖彦、崔馨、早田浩明、篠浦拓、松迫正樹、中馬敦、小林敏生、関根康雄
- 四列目：石塚俊治、中村剛、向井秀泰（何）、山内雅人、高松俊彰、宮内義浩、坂本直哉、新見将泰、本杉英昭、内山隆司、米本司、鈴木裕五列目：飯嶋義浩、福田浩之、大曾根義輝、青江知彦、押田正規、滝沢太一
- 最後列：関川敏彦、本田崇、篠塚典弘、山口浩史、宮原重佳、橋場良、下村進

（朝比奈真由美）

平成3年卒同期会

私たち平成3年医学部卒業生は、卒業以来、同期会は行ったことがありませんでした。昨年末、同級生の小川和彦さんが大阪大学放射線治療学講座教授に就任されました。おのほな同窓会報により多くの同級生はこの吉報を知ることとなったと存じます。

同級生初の教授就任であり、教授就任祝賀会の企画が盛り上がり、平成24年6月9日、京葉文化プラザにて、小川和彦君教授就任祝賀会、平成3年卒同窓会が開催されました。

市川千秋さん、安藤（松本）道子さんの司会で開始。発起人の吉田耕さん、植田育也さんの挨拶、伊藤一茂さん、梅原敬司さんによる乾杯となりました。

小川和彦教授は、千葉大学放射線科から琉球大学へ赴任された後、マリンスポーツもそこそこに研究に打ち込まれ、業績を重ねられていらしたとのこと。千葉大放射線科の同僚であった、小熊栄二さんから、深夜まで診療と勉強に打ち込んだ研修医時代のエピソードが紹介されました。同級生一同、自分のことのように小



川教授誕生をとても嬉しく、誇らしく思ったのでした。小島広成さんが撮影された、学生時代の実習、卒業

式後の謝恩会の映像がスクリーンで流され、若かった学生時代の自分に遭遇しました。一方、今回、21年ぶ

りの再会となった同級生も多かったわけですが。会って話してみると、個性というものには変わっていないことがわかりました。参加者64名、予定の3時間があつという間に過ぎました。有志は四次会まで行き、始発で帰宅となった方もいらしたとか。

長年の懸案事項であった、卒業アルバムも、今回の会を契機として進行しています。業者に発注見込み、完成後に郵送される予定です。今回の祝賀会、同期会のがきが、お手元に届いてない平成3年卒の方はお手数ですが、nobukoishizuka@gmail.com までご連絡ください。写真右から

前列：市川千秋、松本伸行、小島博之、吉田耕、梅原敬司、小川和彦、伊藤一茂、安藤（松本）道子、松野（吉田）展例代、阿部（山田）朝美、石塚伸子  
二列目：佐藤一樹、五十嵐琢司、阿部径和、天野晋、竹内孝治、堀江美正、加藤俊哉、小熊栄二、加藤肇、倉持宏明、坂下美彦、三池聡  
三列目：土井茂治、草塩公彦、小林信雄、大嶋博一、小笠原明、下枝宣史、山口賢一、塚本喜昭、酒井光弘

小島広成、清水孝徳、土屋正一、土合克己、関根（大本）由樹、渡辺紀彦、石原（米倉）あゆみ、島英樹、諏訪部信一、松澤康雄  
四列目：矢野嘉政、石塚満、齋藤雅彦、三浦文彦、杉岡充爾、関直人、畠山健次、大石嘉則、高瀬美咲、白鳥享、松野公紀、増田公男  
最後列：国府田正雄、尾崎裕昭、青木重陽、大淵聡己  
写真に写っていない方々：植田育也、清水（冲永）聡子、清水公一、永田真樹、宍倉（伯野）めぐみ、岩澤（浜岡）朋子  
（石塚伸子）

千葉大学医学部  
平成4年の会

「千葉大学医学部平成4年卒、昭和61年入学、仲間だと思ふ人、集って卒後20年祭をやりましょう！」という掛け声のもと、平成24年7月7日、オリエンタルホテル東京ベイにて開催。潤間（渡辺）励子さんと川平幹事らを中心にインターネット、携帯電話、Facebookなど、文明の利器を利用しながら人集めに奔走、開催の運びとなった。遠くは富山、浜松から、総勢51名が参加、懐かしの面々とご対



面。乾杯の音頭は富山大学附属病院泌尿器科診療教授・小宮顕君の発声のもと、まずは飲み物と食事。懇談。天国からの参加である館岡亜希子さんについて、さいたま市三田眼科・三田（旧

を吐露。宴も酺ではあつたが中締め時間となり、山王病院泌尿器科・太田詔君による一本締めで会は終了。幹事の不幸で二次会は準備してはなかったが、八街市高瀬眼科・高瀬一嘉君の尽力により京葉線新浦安駅ビルの居酒屋を確保、ほぼ全員が移動しての二次会となった。

今回の会費から136000円を「千葉大学医学部平成4年の会」としてるのほな同窓会（新のほな同窓会館設立事業会）へ寄付させていただきました。少しでもお役に立てれば光栄、末筆ながら御報告させていただきます。

参加者：白石博一、潤間励子、谷嶋隆之、小宮顕、相庭温臣、樋口佳則、江畑康哉、太田詔、加藤里絵、木村真二郎、川平洋、中澤健、飯田由美子、鈴木誉、山本正二、久保田博昭、原竜介、櫻井健一、奥村恵子、菊岡修一、遠藤恒宏、三田奈津子、中澤伸子、獅子原薫子、吉田克彦、池田雄次、里見大介、里見あづさ、ヨーダ一公子、服部祐爾、阿部雄造、市来真彦、井上淳、石井敦、高瀬一嘉、真広智仁、稲葉元子、真村瑞子、須藤英文、加藤佳瑞紀、窪田剛実、石井徹、浦野美晴、富

「もぐら会」  
終了のお知らせ

田和宏、山崎健也、中山学、澤井まゆみ、平野達也、小笠原猛、三橋修、亀高尚（順不同）  
（川平 洋）

昨年9月、本年も9月29日に大久保・板垣の幹事で開催する事を決定し同窓会報「るのほな」にも予告していましたが、幹事兩名の加齢による体調不良の為に開催不能となりました事を報告致します。昭和23年の卒業以来、60年以上も続けて来た会を終了する事は誠に残念で申し訳なく深くお詫びいたします。

卒業時は127名でしたが63年を経た現在では生存者は43名で最低年齢は86歳、最高年齢は90歳を越えています。生存者でも殆どの人が何かの病を有し外出困難の状態の様です。

以上の状況から、幹事を引き受けられる元気な人が現れなければ会の開催は不可能です。前田君、上野君など数人と意見交換した所、この状況が好転する見込みは望めないのです、昨年の「もぐら会」を最終とするしかないと言う結論になりました。

た。残念ですが時の流れには逆らえず止むをえません。ご了承下さい。  
尚、会の開催に際して、案内の往復葉書の作成と発送を平成8年以降15年に亘り一人で担当実行してきた前田君に深く感謝します。この努力のお陰で昨年まで「もぐら会」は続ける事が出来たのです。

昭和19年の入学以来68年、永きに亘る交誼に感謝します。戦中、塚原・福田の両君を空襲で失いながら、戦後の食料難は3食芋で凌ぎ、共に苦難を乗り越えて来た学友一同のお別れは寂しい限りですが、個々の交友は変わらず続いて行くと思えます。諸兄の健康と長寿を祈念致しております。  
Auf Wiedersehen !!  
平成24年6月  
追伸

現在、19万円余りの剰余金がありますが、予ての決まり通りるのほな同窓会館設立事業会に寄付致します。御了承下さい。  
（大久保欽司、板垣修造）



# 卒後50年を迎えた先輩への感謝

(学生・卒業生サポートプロジェクト)

千葉大学のはな同窓会  
会則の目的に、本会は千葉  
大学医学部・大学院医学研  
究院および医学部附属病院  
と緊密な関連を保ちその発  
展に貢献すると共に、会員  
相互の親睦を図り、あわせ  
て医道の昂揚に努めること  
が謳われています。この目  
的を達成するために在校生、  
卒業生の支援、感謝を通し  
て同窓会への参加・協力を  
促進する事業が今年度から  
スタートしました。このプ  
ロジェクトは、「学生・卒業  
生サポート・プロジェクト」  
と命名されています。

このプロジェクトの一環  
として今年度から卒業後半  
世紀(50年)を経た卒業生  
を対象にそれを祝い、50年  
の長きにわたる医学・医療  
への貢献と同窓会に対する  
支援への感謝の意を表すこ  
とになりました。同窓会長  
名で感謝状と記念のメダル  
を、今年卒後50年を迎えた  
昭和37年卒の先生方全員に  
贈呈させていただきました。  
7月7日に帝国ホテルで開  
催されたクラス会に伊藤同  
窓会長に代わり私が参加さ  
せていただき、直接お渡し

することができました。こ  
のプロジェクト実現にクラ  
ス会代表の杉岡昌明先生、  
同窓年ののはな同窓会理  
事の岩倉弘毅先生、宍倉正  
胤先生にご尽力いただき、  
更にクラス会からのご寄付  
もいただいたことに深く感  
謝いたします。

後も卒後半世紀を迎える卒  
業生を祝すと共に、卒後50  
年以上を経た卒業生の先生  
方が集える会(米国では  
Half-Century Societyとし  
て交流が盛んに行われてい  
る)を支援していければと  
考えています。

田邊政裕(昭49)

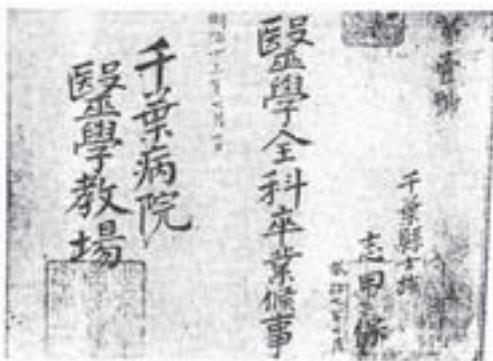
るのはな同窓会として今



# 雑文雑談 志田保と森理記

石出猛史(昭52)

志田保について『房総人  
名辞書(明治42年刊)』によ  
ると、「印旛郡佐倉町並木町  
の人 嘉永六年(1853)生  
旧試験及第の医にして同所  
に医を業とす 日本赤十字  
社功労社員たり」とあるが、  
公立千葉病院医学教場第1  
回卒業生として、卒業証書  
第一号の受領者である(写  
真)。この写真は「八十五年



史)にも収載されている。  
第1回生の卒業は明治13年  
(1880)6月とされてきてい  
るが、この証書は同年七月七  
日付けで発行されている。  
志田保は明治25年(1892)  
当時、印旛下埴生南相馬郡  
部医会に役員として名を連

ねている。また長尾文庫設  
立に際しても発起人の一人  
となっている。  
明治9年(1876)11月9日  
に布達された『医術営業仮  
鑑札交付人名表』に「鑑札  
番号五百十六 印旛郡佐倉  
並木 志田盛軒」という名  
がある。保の父親であろう。  
盛軒(盛介)は旧佐倉藩々  
医で弘化2年(1865)藩命に  
より順天堂佐藤

塾に入塾してい  
る。慶應2年  
(1866)以降の『佐  
倉藩分限帳』に  
よると、「新番  
格 式拾五俵三  
人扶持内八俵勤  
料 第三等医師  
」と記載されてい  
る。明治中頃で  
も、佐藤舜海・  
濱埴昇ら旧佐倉  
藩々医の家筋の  
医師が千葉県の医療界にお  
いて指導的役割を担ってい  
た。  
医学教場第一回卒業生の  
一人森理記が卒業後更に学  
んだ「国家医学」とは、当  
時医科大学(東京大学)の  
みに設けられていた課程で、

講習科目は病理解剖式・精  
神病学・衛生学・日本医制  
及衛生法・法医学の5教科  
で、講習期間は4カ月であ  
った。

理記は後に県立千葉病院  
の外科医員を務める傍ら法  
医解剖にもあたっている。  
明治24年(1891)刊『千葉醫  
學會雜誌』1号から35号に  
かけて、18回にわたって「鑑  
定書」を報告している。45  
号の「嬰兒殺四例 R M生」

とあるのもおそらく理記で  
あろう。  
高等中学校医学部時代か  
ら裁判医学(法医学)の講  
義を担当していたのは眼科  
学の荻生録造であるが、『三  
輪徳寛』によると「荻生録  
造氏 眼科並に法医学(主  
に理論、法医の鑑定実際は  
森理記氏行う」とある。お  
そらく森理記は千葉県にお  
ける最初の法医解剖医であ  
ろう。



処方せん医薬品：注意—医師等の処方せんにより使用すること  
「東商基準収載」  
プロトンポンプ阻害剤  
Pariet 錠 10mg 錠 20mg  
www.pariet.jp  
製造販売元 Eisai エーザイ株式会社  
東京都文京区小石川4-6-10  
製品情報お問い合わせ先：エーザイ株式会社 お客様ホットライン  
フリーダイヤル 0120-419-497 9~18時(土、日、祝日9~17時)

●効能・効果、用法・用量及び禁忌を含む使用上の注意等については添付文書をご参照ください。

PRT1206M02

追悼

故 麻生和雄 先生を偲んで

藤田 優 (昭42)



麻生和雄先生が5月16日肺炎のため、ご逝去されました。昨年暮れより体調を崩され、入退院を繰り返されたようですが、回復に至らず、帰らぬ人となりました。享年85歳でした。

先生は昭和24年千葉医科大学専門部を卒業後、千葉大学皮膚科に入局され、昭和35年講師、昭和39年には助教授に昇任されました。その後、昭和42年から43年には米国ノースウエスタン大学に出張されました。さらに昭和46年から50年の間は米国スタンフォード大学客員助教授として赴任されました。帰国後、昭和50年に山形大学医学部皮膚科に初代教授として就任されました。在任中、日本皮膚科学会東部支部長を務められ、平成3年には第55回日本皮膚科学会東部支部学術大会

会頭を務められております。平成4年定年退職され、山形大学名誉教授の称号を授与されました。定年後は米沢市にオフィスを開設し、地域医療に従事されました。

先生は入局後、故竹内勝教授のもとで、皮膚のビタミン研究に従事され、昭和45年に竹内教授とともに日本ビタミン学会賞を受賞されております。米国から帰国後は皮膚の脂質代謝、プロスタグランジンやCyclic AMP、さらに乾癬の病態に

研究の幅を広げられ、昭和47年には「表皮脂酸の生合成に関する研究」で日本皮膚科学会賞(皆見賞)を受賞されております。このころの先生は研究一筋、朝早くから、夜遅くまで研究室に閉じこもる毎日であったように記憶しております。

山形大学では教室の開設から関わり、少人数の医局員で、医局の運営にはかなりご苦労されたとのことでした。学生には厳しい先生だったとのことですが、教育熱心な先生を慕い、多くの学生が入局し、確固たる教

室に発展させられました。先生ご自身は研究のみならず、臨床にも力を注がれ、多くの症例を内外の雑誌に発表されております。その片鱗を一毛囊性・脂腺系腫瘍囊腫」の本にみることでできます。

米沢で開業後のご様子は麻生皮膚科の年報に何うことが出来ます。盛業の様子に加え、先生の日常もエッセイ風に綴られています。地域の人たちから慕われ、治療のみならず、相談事にも応じていたとのことでした。

先生は大変趣味の広い方でした。とくに釣りは若いころからの趣味で、実験に息詰まるとへら鯛釣りに出かけ、気分転換され、新しいアイデアを思い着かれていたようです。俳句や写真、それに随筆も書かれ、先生の退官記念業績集の後半はそれらから構成されております。お酒も弱いながら大好きでした。とくに晩年は絵を描くことが大好きのよう

で、数年前、診療所でお会いしたとき、白衣の裾を絵具で汚されており、今絵を描いていたところだと楽しそうにおっしゃられていたのが昨日のように思い出されます。

私は入局当初、実験の方法などを手取り足とり教え

ていただき、山形に赴任されてからも公私にわたり、激励やご助言をいただきま

故 十束支朗 先生と

山形のはな会

山形のはな会 会長 山形県鶴岡病院院長 灘岡 壽英 (昭48)



した。長年に亘るご指導、ご厚誼に感謝し、心から冥福をお祈り申し上げます。

精神医学会などの全国学会を主催することになり、おかげで学会の運営については大分詳しくなりました。先生は仕事を離れると、お酒と美味しい食べ物が好きで、噂を聞きつけると色々な店に出かけて行ってはおいしい料理を堪能し、時にはレシビを聞いてきてそれを書きとめておられたりもした。

一方小歌の師匠について練習を重ねる名取になったり、ピアノの演奏を習ったりと趣味も幅広く、一流の風流人を目指しておられるように見えた。教室ができた当時は教室員の数が少なかつたこともあり、よく医局で看護師やそれぞれの家族も一緒に食事を開いたり、毎年正月には医局員が先生の自宅にお邪魔して新年会と称して食べて、飲んで、マジヤンをするというのが習わしとなっていました。

私は昭和48年卒で、大学紛争のあおりで精神科の教室には入局せず、旭中央病院に勤務しながら、週に1、2回大学に行き研修を受けるというカリキュラムだった。当時、十束支朗先生は千葉大学教育学部養護教諭養成課程の教授を務めておられたので直接指導を受ける機会が無く、旭中央病院に週1回来ていた矢崎光保先生(昭34)から紹介され、山形大学に医学部ができるので来ないかと誘われたのが先生との最初の出会いになった。

十束先生と矢崎先生は昭和51年に、私と木下修身先生(現、天童市、秋野病院院長・昭48)が昭和52年に山形に赴任し、山形大学精

として齋藤康先生(現、千葉大学長)が赴任され、一時は千葉大学から先生をお呼びしたりして活動が盛んであったが、教授でおられた先生方が定年退職され、千葉に戻られたりして、徐々に会員数が減少してきて

山形のはな会は、その後泌尿器科の中田瑛浩教授(昭38)や、臨床検査学教授

今となっては悔やまれる。山形のはな会も先生のご逝去とともに活動を休止することになる。

同窓会員のご逝去に際し、帛文の掲載をご希望される方は、同窓会本部へ原稿をお送り下さい。

# 研修プログラム

## 細胞治療内科学講座紹介

### “For Longevity and Better Quality of Life”

千葉大学大学院医学研究院細胞治療内科学

教授 横手 幸太郎 (昭63)

どんなに少子高齢化が進もうと、「長く生きたい」と願うのが人の心だと思えます。そして、どうせ長生きをするなら、元気に人生を全うしたいと考えるのも自然なことでしょう。医学の面からその実現に貢献することが、細胞治療内科学講座の目標です。

細胞治療内科学は、1898年(明治31年)に井上善次郎教授を初代として誕生した第二内科を前身としています。現在、当教室では、代謝内分泌学、血液病、老年医学を主たる診療・研究・教育の対象とし、医学部附属病院では、糖尿病・代謝・内分泌内科と血液内科において最先端の医療を展開しています。

私たちは「specialistである前にgeneralistであれ」をモットーに、医師の育成にあたっています。目の前の患者さんに対し、その時代における最高水準の医療を提供するためにはspecialistが不可欠です。一方、全国に目を向けると、あらゆる専門診療科を揃えた大病院ばかりが存在するわけではありません。自分の専門以外の病気についても初期診療ができ、必要に応じて適切な専門家へと委ねることのできる内科医の需要は今後さらに高まると考えています。

内分泌代謝疾患・動脈硬化・血液疾患・自己免疫疾患・老年病など、もともと全身疾患を対象としてきた旧第二内科の伝統を最大限に活かし、大病院と千葉県内外の主要関連病院を組み合わせた研修プログラムを経験することによって、高度な知識とテクニックに裏付けられた専門医療を、全人的な視点で実践できるようにになると確信しています。

我々の専門領域には、治すことのできない病気が、未だ数多く存在します。その壁を破り、明日の医学を創造するためには、基礎研究、臨床研究、そして橋渡し研究の推進とそれらを牽引できる人材の育成が不可欠です。当教室では、血液研究室、内分泌研究室、糖尿病研究室、代謝老年病研究室のそれぞれにおいて、Basic researchならびに千葉県全域を対象としたclinical researchを展開し、国内外に成果を発表しています。さらに、2011年10月からは先進加齢医学寄附講座が加わり、老化・抗老化をターゲットとした研究を推進しています。

新臨床研修制度の導入に関連し、一時期は当教室でも入局者の減少が心配されました。しかし、講座メンバーの情熱と第二内科OBの多大なご支援により、数多くの優秀な新入局員を迎えることができるようになりました。現在、糖尿病・代謝・内分泌内科と血液内科の病棟は日々活気に溢れています。良い臨床医になりたい、魅力的な研究をしたい、海外留学したい、など多様なニーズを叶えてくれるプログラムを一人でも多くの後輩が経験し、我々と共に明日の医学を築いて下さることを心から期待しています。

船橋市立医療センターはJ R船橋駅北口からバスで約15分、海老川沿いにてんじん畑(船橋市特産)に囲まれた静かな環境にあります。昭和59年に206床の2次救急病院としてスタートし、平成7年には426床に増床しました。この期に救命救急センターを設立し、東葛南2次医療圏の当時としては唯一の3次救急病院となりました。平成9年には臨

床研修病院の指定をうけ、平成19年には地域がん診療連携拠点病院の指定、平成22年には地域医療支援病院の承認を得るとともに緩和ケア病棟を開設し46床となりました。現在は、救急医療とがん診療を主体とした急性期病院として診療をおこなっています。

初期研修の特色として、当院の北米型ER方式の救急を理解していただくために1年目に麻酔・救急を3か月ローテーションし、重症例を含む多くの症例の初期治療、トリアージを研修します。その後各診療科において専門治療を研修するシス

テムをとっています。また2年次研修からは1次救急患者さんを可能な限り1人で診療する体制をおこなっています。地域医療実習では釧路三慈会病院で2週間おこない、広く臨床の場を経験していただいております。当院は4月よりDPC病院II群(高診療密度病院群)に分類され、大学病院本院に準じた診療密度と一定の機能をもつ病院と位置づけられました。7月には多くの診療科や部署が1つになって治療をおこなう必要がある重度外傷センターを開設、他方面においてもチーム医療を押し進めています。また研修医の皆さんにはリサーチマインドも持つていただく為に、各科においての指導を始め、病院内外の学術発表、論文発表にも力をいれております。今後も臨床研修病院として、時代背景に則し

た研修体制、高い診療密度をもった急性期医療、チーム医療そしてリサーチマインドを身につけていくことを念頭に歩んでいきたいと思えます。(本病院についてはオンライン会報・病院紹介で動画にて掲載してあります。)

内科部長・多部田弘士(信州大・昭54、呼内)、副院長・丹羽淳子(昭55、小児科)、診療局長兼外科部長・丸山尚嗣(昭57)、循環器内科部長・稲垣雅行(昭55)、泌尿器科部長・佐藤信夫(昭55)、代謝内科部長・岩岡秀明(昭56)、研修部長兼循環器内科副部長・福澤茂(昭57)、整形外科部長・三村雅也(昭58)、小児科部長・佐藤純一(昭62)、消化器内科部長・水本英明(昭63)、心臓血管外科部長・茂木健司(昭63)、リハビリテーション科部長・池之上純男(昭63)、呼吸器内科部長・中村祐之(平元)、歯科・口腔外科部長・村野彰行(昭和)、大塚雄一郎(平7)、眼科部長・上原淳太郎(平11)、皮膚科部長・宮川健彦(平13)をはじめ、常勤104名中56名が在職しており、また初期研修医総数21名中千葉大学卒業生11名が研修をおこなっています。

院長・千葉大学医学部臨床教授 高原善治(昭49)

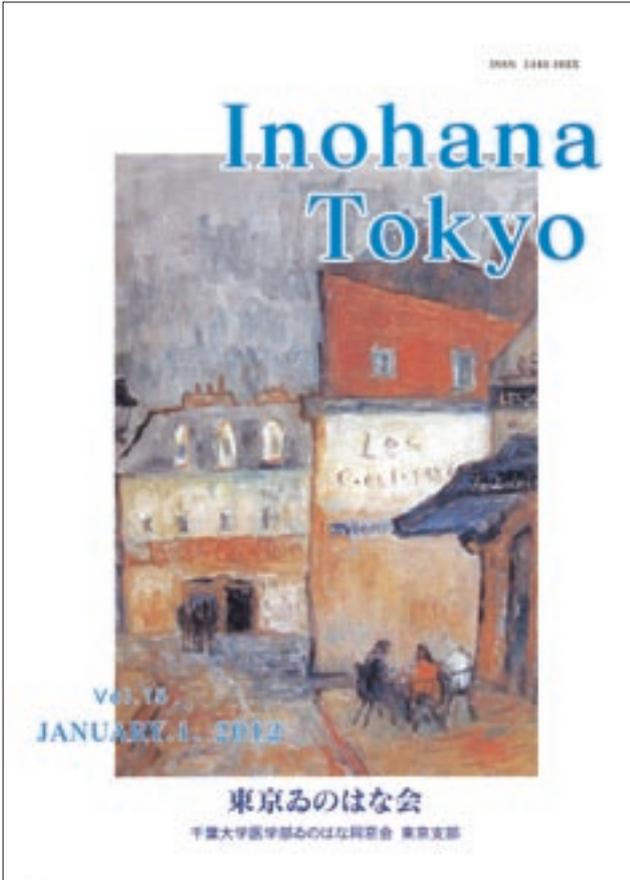
船橋市立医療センター

院長・千葉大学医学部臨床教授 高原善治(昭49)



# 東京ゐのほな会

平成24年1月 第15号



### 目次

Inohana Tokyo vol.15

著者名	Page
京都にてあつて	酒田 高純 1
光景集	田中 亮 3
私の看護日記	西原正一郎 7
本市市の建設導入論	渡辺 正樹 13
読書(『14』)エッセイ	小沢 健行 17
空中散歩	藤田 雅也 21
「結婚二十年後」	松本 幸男 25
私が知っていた看護学教育	木村 敏雄 29
看護の進化	藤山 重雄 33
秋と看護 富山大学看護学部	村瀬 博 41
思いつれつれ (その3)・その2	大岡 一雄 45
ニューズレター制作	藤田 雅也 51
こんなとき	石田 洋一 55
アトピー性皮膚炎の看護実践	渡邊 純一 59
九条線と東武の職員を拝見して	橋本 英樹 63
私の看護観	渡辺 正樹 65
千葉県看護協会設立100周年を祝して	岸本 雅也 71
編集後記	藤田 正樹 75

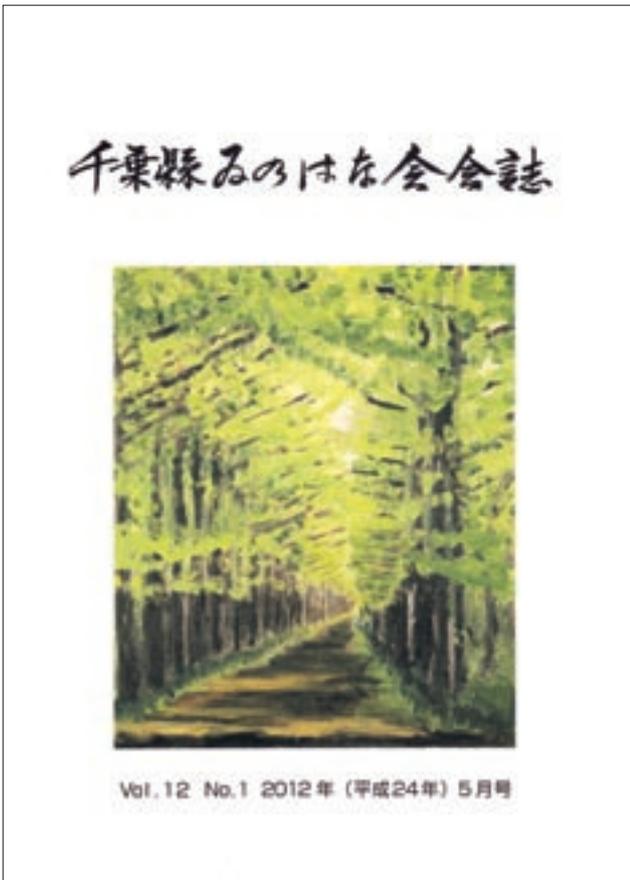
  

### 勤務誌通信 vol.12

ふたば生業科の中心	宮本 高純 79
加学医科看護学専攻	酒田 高純 81
数珠に思う	岸 謙治 83
看護士としてのマインド	坂下 博 85
「フコヒロ」に敬慕する	河本 雅也 89
ミカドムアリス・モデルに就任と拝見	渡邊 純一 93
東京女子医科大学に院外研修先を決定して	松本 幸雄 101
院外研修先への視察を予定中	石田 洋一 103
千葉県看護協会創立して	藤田 洋一 105
東京ゐのほな会 幹会決断	111
千葉 決 算	113
平成24年度ゐのほな行事予定	115
東京ゐのほな会機関分冊	116
東京ゐのほな会会則	117

# 千葉県ゐのほな会

平成24年5月 第12号



### 目次

巻頭言	1
千葉県看護協会創立100周年記念号	2
千葉県看護協会創立100周年記念号	3
千葉県看護協会創立100周年記念号	4
千葉県看護協会創立100周年記念号	5
千葉県看護協会創立100周年記念号	6
千葉県看護協会創立100周年記念号	7
千葉県看護協会創立100周年記念号	8
千葉県看護協会創立100周年記念号	9
千葉県看護協会創立100周年記念号	10
千葉県看護協会創立100周年記念号	11
千葉県看護協会創立100周年記念号	12
千葉県看護協会創立100周年記念号	13
千葉県看護協会創立100周年記念号	14
千葉県看護協会創立100周年記念号	15
千葉県看護協会創立100周年記念号	16
千葉県看護協会創立100周年記念号	17
千葉県看護協会創立100周年記念号	18
千葉県看護協会創立100周年記念号	19
千葉県看護協会創立100周年記念号	20
千葉県看護協会創立100周年記念号	21
千葉県看護協会創立100周年記念号	22
千葉県看護協会創立100周年記念号	23
千葉県看護協会創立100周年記念号	24
千葉県看護協会創立100周年記念号	25
千葉県看護協会創立100周年記念号	26
千葉県看護協会創立100周年記念号	27
千葉県看護協会創立100周年記念号	28
千葉県看護協会創立100周年記念号	29
千葉県看護協会創立100周年記念号	30
千葉県看護協会創立100周年記念号	31
千葉県看護協会創立100周年記念号	32
千葉県看護協会創立100周年記念号	33
千葉県看護協会創立100周年記念号	34
千葉県看護協会創立100周年記念号	35
千葉県看護協会創立100周年記念号	36
千葉県看護協会創立100周年記念号	37
千葉県看護協会創立100周年記念号	38
千葉県看護協会創立100周年記念号	39
千葉県看護協会創立100周年記念号	40
千葉県看護協会創立100周年記念号	41
千葉県看護協会創立100周年記念号	42
千葉県看護協会創立100周年記念号	43
千葉県看護協会創立100周年記念号	44
千葉県看護協会創立100周年記念号	45
千葉県看護協会創立100周年記念号	46
千葉県看護協会創立100周年記念号	47
千葉県看護協会創立100周年記念号	48
千葉県看護協会創立100周年記念号	49
千葉県看護協会創立100周年記念号	50
千葉県看護協会創立100周年記念号	51
千葉県看護協会創立100周年記念号	52
千葉県看護協会創立100周年記念号	53
千葉県看護協会創立100周年記念号	54
千葉県看護協会創立100周年記念号	55
千葉県看護協会創立100周年記念号	56
千葉県看護協会創立100周年記念号	57
千葉県看護協会創立100周年記念号	58
千葉県看護協会創立100周年記念号	59
千葉県看護協会創立100周年記念号	60
千葉県看護協会創立100周年記念号	61
千葉県看護協会創立100周年記念号	62
千葉県看護協会創立100周年記念号	63
千葉県看護協会創立100周年記念号	64
千葉県看護協会創立100周年記念号	65
千葉県看護協会創立100周年記念号	66
千葉県看護協会創立100周年記念号	67
千葉県看護協会創立100周年記念号	68
千葉県看護協会創立100周年記念号	69
千葉県看護協会創立100周年記念号	70
千葉県看護協会創立100周年記念号	71
千葉県看護協会創立100周年記念号	72
千葉県看護協会創立100周年記念号	73
千葉県看護協会創立100周年記念号	74
千葉県看護協会創立100周年記念号	75
千葉県看護協会創立100周年記念号	76
千葉県看護協会創立100周年記念号	77
千葉県看護協会創立100周年記念号	78
千葉県看護協会創立100周年記念号	79
千葉県看護協会創立100周年記念号	80
千葉県看護協会創立100周年記念号	81
千葉県看護協会創立100周年記念号	82
千葉県看護協会創立100周年記念号	83
千葉県看護協会創立100周年記念号	84
千葉県看護協会創立100周年記念号	85
千葉県看護協会創立100周年記念号	86
千葉県看護協会創立100周年記念号	87
千葉県看護協会創立100周年記念号	88
千葉県看護協会創立100周年記念号	89
千葉県看護協会創立100周年記念号	90
千葉県看護協会創立100周年記念号	91
千葉県看護協会創立100周年記念号	92
千葉県看護協会創立100周年記念号	93
千葉県看護協会創立100周年記念号	94
千葉県看護協会創立100周年記念号	95
千葉県看護協会創立100周年記念号	96
千葉県看護協会創立100周年記念号	97
千葉県看護協会創立100周年記念号	98
千葉県看護協会創立100周年記念号	99
千葉県看護協会創立100周年記念号	100

# 会員から

## 千葉大学医学部社会医学研究会のこと

北川 定 謙 (昭31)



第13号 合計13冊  
 (2) 社会医学研究会活動資料一式  
 (3) 保健同人結核選書No.1 結核初感染の臨床的研究

千葉大学医学部社会医学研究会(以後、社医研と称する)のことについて、報告させていただきます。

実は、佐久間光史先生(昭和25年卒、平成22年12月5日御逝去)が社医研の記録を千葉大学附属図書館多鼻分館に預けられ、当時の分館長(瀧口正樹先生・同大学院遺伝子生化学教授)のはからいで、永久保存の処置をしていただいていたことを知り、去る4月12日に分館を訪ね、分館長室に保管されていることを確認したところでした。

佐久間先生の記録によれば、大略以下のとおりです。以下の記録を平成21年3月27日千葉大学附属図書館多鼻分館に寄贈され恒久保管して下さることになったとのことです。

(一)「社会医学」誌第1号

1. 昭和21年3月、当時医学部3年生であった居初良雄さん、土屋夏実さん、2年生であった吉田亮さん、稲葉博徳さん、山口覺太郎さん、吉岡宏三さん、有賀光さん、山下修さん、宇佐美勉さん、広瀬震一さん、窪田金次郎さんなどが集まって、社会医学の勉強会を始めた。

2. 昭和21年3月、戦災焼け跡のバラック生活者の衛生調査を実施。

3. 昭和21年9月、結核予防会と共同で、東京都小岩街頭で結核集団健診を実施。

4. 右記3.に関して、吉田亮さんが石川憲夫教授(第二内科)と呼ばれ、石川教授は21年3月以来の社医研活動を良く知っておられ、大いに賛意を表されるときに「今後、君たちの活動の医学的責任、医療面の責任は私が負ってあげる。大いに社会のために尽くそうではないか」と言われた。以後、小岩の日本毛織中山工場の集団健診から始まって、10年間に及ぶ五井町の町ぐるみの結核住民健診などの事業へと発展した。

5. その後、寒川における地域活動、長野県合での

6. 最近の状況については知るところではないが、昭和63年9月現在で作成された社会医学研究会OB会名簿によると下表のとおりです。

戦後、社会の困難な時期に医学生として、結核や母子保健、環境汚染問題などに関心をもった学生が卒業後、社会の様々な場面で、それぞれの医の志を仕事に生かしてきておられるのであるが、仲間として大変懐かしい思いを新たにしたいところです。

ご関心のある方は、どうぞ図書館分館長室を訪ねら

卒年	人数	卒年	人数	卒年	人数	卒年	人数	卒年	人数
		昭和31	5人	昭和41	3人	昭和51	2人	昭和61	5人
		32	11	42	1	52	2	62	1
昭和23	10人	33	9	43	8	53	1	63	2
24	7	34	13	44	0	54	1		
25	5	35	8	45	0	55	6		
26	6	36	5	46	4	56	2		
27	6	37	10	47	1	57	1		
28	5	38	3	48	2	58	2		
29	10	39	1	49	1	59	0		
30	5	40	0	50	3	60	0		

## 同窓会員著書の紹介

伊藤 進 (俳名 木津京太) 著  
 句集「寒の薔薇」

ふらんす堂 定価二、六六七円(税抜)  
 伊藤 進 (昭26)



この俳句集は、過去に出

版した句集「月桂樹」と「探梅行」について、平成18年頃から23年半ばまでの句を自選したものです。句は萬緑誌上に発表したものばかりですが、萬緑という俳誌は、俳人中村草田男の創刊

したもので60余年も読んでおります。この句誌の同人達の評価を一応の目安としますと、一句7点以上を得た句は45句、12点以上は12句といった具合で、思った以上に得点を重ねていることが解りました。句は何も点数で良否を決めるものではないことは重々解っておりますが、一応の目安としておりましたわけですが、早い話が新聞紙上の俳句の選をみても、各選者で異なり、一致して推することは希です。

さて、どの程度、紹介しているものやら解りかねますが、ここに得点の多かった句を十句程挙げておきます。なお、装丁には、自分の好みも、可成り入っております。また、最近では、現代俳句精鋭選集11にも102

伊藤 進 著  
 内科からみた乾癬

医学出版 定価四、八〇〇円(税抜)  
 伊藤 進 (昭26)



いまは昔、小生は千葉大学第一内科に所属し、主と

して肝疾患について研鑽していたが、思うままに仕事をしえたことに感謝している。

このささやかな医書も、もとはといえば、千葉の医局時代に萌芽があったといえなくもない。生検で次々

句出句しております。なお、寒の薔薇の出版社はふらんす堂です。

(広隆寺 思惟像)  
 モナ・リザにあらぬまなざしあたたけし  
 忘我いな没我といはん蟬時雨  
 野仏は供花を友とす雲の峯  
 蠅の生かされてをり太柱  
 秋の薔薇陰影なくば軽からん  
 冬薔薇開ききらざる叡知あり  
 亡き父母と輪藏押すや寒の梅  
 生は死を内包すとや寒の薔薇  
 浄めては映ゆ一月の草田男碑  
 風神の丹田太し年新た

と新発見が生まれ、第一内科で始めて欧文誌に出したの  
は、小生らの benign  
recurrent intrahepatic  
cholestasis の症例であつた  
と思う。以後、次々と発表  
したが、小生らは nonallo-  
Holic steatohepatitis の硬変  
化を世界で始めて確かめた  
[Galambos J.T., Riepe  
S.P.: Cirrhosis, Current He-  
patology (ed. G.L.Gitnick)  
1988]。C.S.G. の肝炎に  
合併した乾癬が UDCA で治  
療したことを始めて経験し  
欧文誌にしたためた。当時  
は千葉大も埼玉医大も退職  
していたが、その後、乾癬  
患者十数例を経験し、一例  
を除き、UDCA で凡て完治  
ないしほぼ治癒した。但し、  
UDCA は治療後も服用しな  
いと再発することも解つた。  
いまのところ、副作用はみ  
られていない。また、リウ  
マチ性浸出性関節炎や類乾  
癬患者にも著効をみた。  
劇的なことは、全身乾癬  
の肥満度の強い女性が、一  
三ヶ月の中に、ほぼ乾癬が

消退してきたことである。  
これには、患者さん自身も  
大変びつくりしていたこと  
を思いだす。これら乾癬患  
者の肥満度や脂質代謝、既  
往歴をみると、脂質代謝の  
異常を考慮せざるをえなかつた。最近、外国誌では、  
このような、肥満、脂質代  
謝異常、さらに、糖尿病、  
心疾患との関連性が強調さ  
れ、患者の症例にもこれに  
該当するものが多くみられ  
てゐる。とくに、OxLDL を  
乾癬部位に蛍光抗体法で確  
認した論文は大変刺激的で  
あつた。

現在、医療、医学は著し  
く発展、発達し分化せざる  
をえない専門分野となつて  
いる。これはこれで大変結  
構なことであり、また、必  
然的なことではあるが、多  
疾患における相互関連性  
目がとどかぬ嫌いが出てこ  
よう。共同的医療、医学の  
必要性がここにあるのでは  
なからうか。

なお、本書は2025年5月、  
医学出版発行です。

**原稿募集**

1. 現代の医療問題について
2. 開院など近況報告
3. 会員著書紹介 など

次号は、平成24年1月発行予定です。  
原稿は1400字以内にて事務局まで！  
E-mail: info@nohahai.jp

**平成24年度 第1回常任理事会議事要旨抜粋**

日 時：平成24年4月19日  
(木)

場 所：東京ステーション  
コンファレンス 605  
A室

出席者：伊藤晴夫(会長)、  
大井利夫(副会長)、  
濱陽高穂(副会長)、  
鈴木信夫(副会長)、  
青木謙、赤星圭朗、  
岩倉弘毅、岡本和  
久、小野田昌一、  
坂田早苗、佐藤通、  
宍倉正胤、白澤浩  
鈴木守、田中光、  
田邊政裕、林田和  
也、吉原俊雄  
(敬称略)

日頃とし、平成25年5月竣  
工を予定していることが報  
告された。

(2) 広報編集関係  
鈴木信夫副会長より、同  
窓会報160号の発送が平成24  
年5月15日の予定であり、  
また9月発行の会報からカ  
ラー化することが4月9日  
(月)の編集委員会で決定し  
たことが報告された。また、  
オンライン会報編集委員会  
をのりな同窓会総会開催  
同日に予定していることが  
報告された。

2. 協議事項  
(1) 名誉会員について  
伊藤会長より、資料に基  
づき説明があり、名誉会員  
推薦に関する内規に則り支  
部、大学推薦の7名を名誉  
会員として総会に推薦する  
ことが承認された。

(2) 役員選出について  
山梨支部からの常任理事、  
理事の推薦を受けてから総  
会にて承認を得ることとし  
た。

(3) 平成23年度決算  
① 決算報告  
白澤浩理事より、資料に  
基づき説明があり、収入に  
ついては、会費納入額が減  
額し、会報掲載広告料、名  
簿発行による収入の増額が

あつた旨報告された。支出  
については、会報の印刷費  
における節約が報告された。  
名簿発行による収入により、  
同窓会基金へ200万円預け入  
れることが報告され承認さ  
れた。のりな同窓会入会  
金については、千葉大学卒  
業生全員が納入しているこ  
とが説明された。

(4) 平成24年度事業計画  
鈴木副会長より、資料に  
基づき説明があつた。「千葉  
医学の伝統」言語化は中間  
報告を終了したこと、同窓  
会会員名簿の次回発行は202  
5年であること、東日本大震  
災救援募金は一旦終了した  
こと、記念誌の発行は平成  
24年5月31日発行予定であ  
ることが提案された。また、  
平成24年度事業に、新たに  
学生・卒業生サポート・プ  
ロジェクト(案)を加える  
こととする旨、田邊理事よ  
り提案された。在校生・卒  
業生への支援、感謝を通し  
て同窓会への参加・協力を  
促進し、将来的には事業の  
寄附制度を考案する趣旨が  
説明された。学生に対して  
は留学時の支援、ポランテ  
イアなどの表彰、名刺、白

衣、聴診器等の授与が提案  
された。卒業生に対しては  
積極的に関与かけることが  
重要であり、例えば、卒後  
10年等の節目にギフトを送  
ることが提案された。卒業  
50年には同窓会としてJapan  
Century Society を開催、  
Home-Coming Day(新同窓  
会館の活用)を設けるとい  
う提案がなされた。卒後10  
年、20年、などの同期会の  
支援をする等の意見があり、  
具体的な提案を総会に提出  
することとし、承認された。

(5) 平成24年度予算案  
白澤理事より、資料に基  
づき説明があつた。収入に  
ついて会費の入会金を60万  
円と減額すること、会報の  
広告掲載費を50万円と増額  
すること、支出について会  
議費は評議員会開催を考慮  
して増額、旅費・通信費も  
増額すること、会報印刷費  
は減額すること、のりな  
同窓会賞学術賞について本  
年度は2名分を計上するこ  
と、猪之鼻奨学会が公益財  
団法人として認められたた  
め年度を限って寄附金の増  
額を行うこと、また、今年  
度より新たな事業の学生・  
卒業生サポートプロジェクト(案)の経費は予備費よ  
り支出することが報告され、  
予算案は承認された。

(6) のりな同窓会賞選考結  
果  
田邊理事より、資料に基  
づき、学術賞に加藤直也氏  
(昭61卒)、鈴木浩太郎氏(平  
6卒)が選考委員会より候  
補者として推薦された旨の  
報告があり、選考結果が承  
認された。

(7) 総会議題等について  
濱陽高穂副会長より、資  
料に基づき、総会行事内容  
の説明があり承認された。

(8) 評議員のあり方について  
吉原俊雄理事より、資料  
に基づき説明があつた。現  
在の評議員に役職の継続・  
辞退についてアンケートを  
おこなつたところ、106名中  
23名継続、39名辞退(その  
うち17名は被推薦者を明記)  
という回答であることが報  
告された。回答の届いてい  
ない学年には更に連絡をと  
るようになり、被推薦者には  
評議員就任を依頼すること  
が提案された。ある程度評  
議員の人数が確定したとこ  
ろで評議員会を開催する予  
定であることが提案された。  
評議員には何らかの利点を  
付加するよう考慮し、今  
後の評議員会のあり方を検  
討していきたいとの提案が  
なされた。

簿発行による収入の増額が

平成24年度 むのはな同窓会総会議事要旨

日時：平成24年6月16日

(土)

場所：銀座アスターお茶の水賓館

出席者：56名  
委任状：610名

濟陽高穂副会長の辞により開会となり、白澤浩理事の司会により、まず物故者に黙祷を捧げた。伊藤晴夫会長の挨拶の後、同会長が議長に選出され議事が進められた。

議 事

(1) 名誉会員の推薦について  
白澤理事より、内規に基づき推荐された7名について説明があり、承認された。

(2) 年次活動について (報告事項)  
(1) 庶務部報告  
鈴木信夫副会長より、平成23年度の各会議開催や各支部との交流の内容について報告された。

(2) 事業部報告  
同副会長より、同窓会賞および学外研究助成の決定、むのはな同窓会報の年3回発行等について報告された。

(3) 平成23年度決算について

(1) 決算報告

白澤理事より決算内容について説明があった。収入については、会費収入の減少が見られるが、会報の広告掲載料が増額となり、3年に1度の名簿発行による収入があった。支出に関しては会報の印刷費の削減などにより予算に対して節約になったこと、また、名簿発行による収入から200万円を同窓会基金に積立てる事とした等が報告され、承認された。

(2) 監査報告

田中光監事および秋葉哲生監事より監査報告があり、決算案が承認された。

(4) 平成24年度事業計画について

鈴木副会長より会報発行、各地域のむのはな会への支援、各地域のむのはな会と本部間との交流、研究教育助成、IT広報関連事業、むのはな同窓会館設立(135周年記念)事業、同窓会組織の充実等について説明があった。田邊政裕理事より学生・卒業生サポート・プロジェクト(案)について説明があり、在校生・卒業生への支援、感謝を通して同窓会

への参加・協力を促進するための案について説明があり、承認された。

(5) 平成24年度予算案について

白澤理事より各項目の予算額について説明があった。収入については、会費収入は減額し、会報への広告掲載収入を増額することとした。支出については評議員会の開催予定のため委員会の増額、会報印刷費を減額することとした。事業費一般学事奨励からむのはな賞学術賞を2名とし、猪之鼻奨学会は平成24年度4月から公益財団法人に認定され支援として助成金を一定年限増額計上すること等が説明され、予算案が承認された。

(6) 役員を選出について

① 理事  
白澤理事より会則第12条に則り説明があり、理事が承認された。  
② 常任理事  
同理事より会則第8条に則り説明があり、総会を理事会併催としようえで、常任理事選出が承認された。  
③ 評議員  
同理事より会則15条に則り説明があり、評議員が承認された。

(7) むのはな同窓会賞規定の改定について

学術賞は他の関連団体の賞と重複するため、むのはな同窓会では趣旨を変え(第2条)、社会貢献賞及び功労賞とすることが提案され、承認された。

(8) 新むのはな同窓会館設立事業について

田邊政裕理事より新むのはな同窓会館の設立について説明があり平成24年7月に第2回の開札、竣工予定(平成25年3月)等が説明され、了承された。

(9) その他

吉原俊雄理事より評議員の役職継続、辞退についてのアンケートを行ったことが説明された。評議員会の組織をしっかりとしたものとするにより、若い会員の同窓会離れや不詳会員の増加、会費納入率の低下等の問題を少しでも改善していくよう評議員を学年代表幹事、学年の連絡係、情報発信係のような実践的なものとできるよう今後も検討を続ける。少人数でも評議員会の親睦会の開催を予定していることが報告された。

り、閉会となった。

むのはな同窓会賞表彰式

田邊理事の司会により、学術賞(加藤直也氏、鈴木浩太郎氏)の表彰式が行われた。伊藤会長より表彰盾と副賞が授与された。

特別講演

伊藤会長の司会により、白澤卓二氏(順天堂大学加齢制御医学講座教授)が「いつまでも若々しくいきるために」と題して講演された。

懇親会

岡本和久理事の司会により開会された。伊藤会長の挨拶に続き、同窓会賞受賞者、叙勲者、名誉会員諸氏等からご挨拶を頂いた。歓談の時を過ごし、閉会となった。

平成24年度総会において選出された名誉会員

川上 成之 氏 (昭22)	佐藤 通 氏 (昭35)
石井 邦夫 氏 (昭26)	加部 恒雄 氏 (昭44)
鹿山 徳男 氏 (昭29)	鈴木 信夫 氏 (昭47)
片山 喬 氏 (昭30)	

開催予定の行事をお知らせ下さい

学会、研究集会、むのはな会、クラス会など種々の行事開催予定とその内容について同窓会事務室へお知らせ下さい。本会報に掲載致します。なお、本会報の発行月は1月、5月および9月です。



高親和性AT1レセプターブロッカー

オルメテック錠 5mg 10mg 20mg 40mg

処方せん医薬品：注意—医師等の処方せんにより使用すること—  
一般名/オルメサルタン メドキシソル

効能・効果、用法・用量および禁忌を含む使用上の注意等については製品添付文書をご参照ください。



第一三共株式会社  
東京都中央区日本橋本町3-5-1

平成23年度決算報告

収入の部	款項目	予算額(円)	決算額(円)	対予算額(円)
	会費等	21,400,000	20,136,000	-1,264,000
	事業収入	5,000,000	5,430,556	430,556
	他会計より受入	100,000	245,819	145,819
	寄付金	200,000	500,000	300,000
	雑収入	20,000	1,889,162	1,869,162
	(当期収入計)	26,720,000	28,201,537	1,481,537
	前年度繰越金受入	2,717,489	2,717,489	
	収入合計	29,437,489	30,919,026	1,481,537

支出の部	款項目(節)	予算額(円)	決算額(円)	対予算額(円)
	総務費	12,300,000	11,066,362	1,233,638
	事業費	14,380,000	13,199,416	1,180,584
	法人税等	1,400,000	1,235,300	164,700
	予備費	1,257,489	0	1,257,489
	積立金	100,000	100,000	0
	次期繰越金		3,317,948	-3,317,948
	支出合計	29,437,489	30,919,026	-1,481,537

平成24年度予算

収入の部	款項目	平成24年度予算額(円)	平成23年度予算額(円)	平成23年度決算額(円)
	会議費等	20,500,000	21,400,000	20,136,000
	事業収入	5,000,000	5,000,000	5,430,556
	他会計より受入	100,000	100,000	245,819
	寄付金	500,000	200,000	500,000
	雑収入	20,000	20,000	1,889,162
	(当期収入計)	26,120,000	26,720,000	28,201,537
	前年度繰越金受入	3,317,948	2,717,489	2,717,489
	収入合計	29,437,948	29,437,489	30,919,026

支出の部	款項目(節)	平成24年度予算額(円)	平成23年度予算額(円)	平成23年度決算額(円)
	総務費	12,700,000	12,300,000	11,066,362
	事業費	13,800,000	14,380,000	13,199,416
	法人税等	1,400,000	1,400,000	1,235,300
	予備費	1,437,948	1,257,489	0
	積立金	100,000	100,000	100,000
	次期繰越金			3,317,948
	支出合計	29,337,948	29,437,489	30,919,026

人事異動

教授

麻酔学

磯野史朗(昭59)

(准教授より)

特任教授

総合医科学講座

木村文夫(昭57)

(臓器制御外科学 准教授より)

准教授

臨床腫瘍学

田口奈津子(平元)

(附属病院講師より)

講師

消化器内科

石原武(昭63)

(同助教より)

他大学教授就任

藤田保健衛生大学医学部

臓器移植科

劍持敬(昭58)

(千葉東病院臨床 研究センター長より)

順天堂大学医学部

乳腺・内分泌外科学研究室

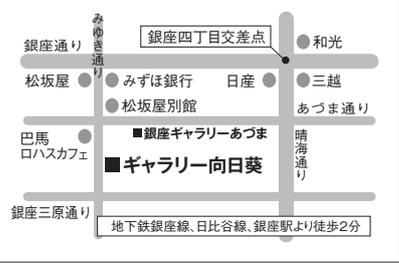
齊藤光江(昭59)

(同前任准教授より)

2012年 第37回  
**の は な 美術展**  
 -千葉大学医学部OBによる美術展-  
 10月1日(月)~7日(日)  
 AM11:00~PM6:30 最終日4時

銀座 ひまわり  
**ギャラリー向日葵**  
 〒104-0061  
 東京都中央区銀座5-9-13  
 銀座菊正ビル2F  
 TEL 会場 03-3572-0830  
 TEL 事務所 03-3573-1680  
 懇親会 10月6日(土)午後2時 会場にて

初秋の候、益々御清栄のこととお慶び申し上げます。例年通り右記の会場で、第37回展を開催いたします。ご多用中恐縮ながら何卒ご高覧賜りたくご案内申し上げます。



astellas  
 免疫抑制剤(タクロリムス水和物製剤)  
**プログラフ**  
 錠剤、処方せん医薬品  
 (注意-医師等の処方せんにより使用すること)  
 注射液 2mg/5mg  
 カプセル 0.5mg/1mg/5mg  
 顆粒 0.2mg/1mg  
 Prograf®  
 「効果・効果」「用法・用量」「警告・禁忌を含む使用上の注意」等につきましては、製品添付文書をご参照ください。  
 株式会社 アステラス製薬株式会社  
 東京都板橋区尾根3-17-1  
 (TEL:03-3133-1111) 本社/東京都中央区日本橋本町2-3-11

### 改定 ゐのほな同窓会賞規定

旧	新
<p>(顕彰の種別)</p> <p>第2条 顕彰の種別は<u>学術賞</u>及び功労賞とする。</p> <p>1. <u>学術賞は、医学あるいは医療活動の顕著な業績により、学術的あるいは社会的に高い貢献をした会員（個人あるいはグループ）に授与する。</u></p> <p>2. 功労賞は、医学あるいは広く文化の各領域において千葉大学および千葉大学ゐのほな同窓会に多大の貢献をしたものに授与する。</p> <p>功労賞の区分は以下の<u>四種</u>とする。</p> <p>国際賞：国際交流及び海外医療の向上に尽くしたものの教育・文化賞：教育、芸術およびスポーツなどの領域において功績顕著なもの</p> <p><u>医療・福祉・行政賞：医療・福祉・行政の分野において優れた業績のあるもの</u></p> <p><u>社会功労賞：自己の危険を顧みず人名救助したもの、公益のため私財を寄付するなど功績顕著なもの</u></p>	<p>(顕彰の種別)</p> <p>第2条 顕彰の種別は<u>社会貢献賞</u>及び功労賞とする。</p> <p>1. <u>社会貢献賞は、医療活動の顕著な業績により、社会的に高い貢献をした会員（個人あるいはグループ）に授与する。</u></p> <p>2. 功労賞は、医学あるいは広く文化の各領域において千葉大学および千葉大学ゐのほな同窓会に多大の貢献をしたものに授与する。</p> <p>功労賞の区分は以下の<u>三種類</u>とする。</p> <p>国際賞：国際交流及び海外医療の向上に尽くしたものの教育・文化賞：教育、芸術およびスポーツなどの領域において功績顕著なもの</p> <p><u>福祉・行政賞：福祉・行政の分野において優れた業績のあるもの</u></p> <p><u>社会功労賞は削除</u></p>

註

社会貢献賞：社会的に高い貢献は秀でたプロフェッショナルリズム（患者・家族、医療者、一般人に対する優れた関係性、長年の研鑽による卓越した診療能力）による医療の実践を意味し、対象には診療所、地域の病院で診療に従事する開業医、勤務医を広く求め、自薦、他薦による申請を受け付ける。申請者より原則として開業医1件、勤務医1件、その他1件を受賞候補者として選考する。

卒年	氏名	卒年	氏名	卒年	氏名
昭16⑩	清川 素道	ㄥ48	灘岡 壽英	ㄥ7	山口 和也
昭21	齋藤 豊一	ㄥ49	菅野 治重	ㄥ8	三階 貴志
ㄥ22	新田 実男	ㄥ50	高林克日己	ㄥ9	腰塚 周平
ㄥ23	市川平三郎	ㄥ50	平井 愛山	ㄥ10	太和田暁之
昭25	宇井 清	ㄥ51	高橋 和久	ㄥ11	小林 圭介
専25	円城寺 栄	ㄥ53	新井 貞男	ㄥ11	三宅 敦子
昭27	鍋谷 欣市	ㄥ53	山口 哲生	ㄥ12	川辺 純子
ㄥ31	上原すゞこ	ㄥ54	軍司 祥雄	ㄥ12	山田 伸子
ㄥ31	小川 道一	ㄥ54	巽 浩一郎	ㄥ13	大島 拓
ㄥ31	小野清四郎	ㄥ55	神崎 哲人	ㄥ13	杉本 晃一
ㄥ32	仙波 恒雄	ㄥ55	佐藤 慎一	ㄥ14	金 宇鎮
ㄥ32	藤本 茂	ㄥ56	伊丹 純	ㄥ15	篠原 翼
ㄥ33	嶋田 俊恒	ㄥ56	高 在完	ㄥ15	新津 富央
ㄥ33	高木 學治	ㄥ57	下山 直人	ㄥ16	内野 康志
ㄥ34	神田 芳郎	ㄥ58	後藤 茂正	ㄥ16	寺谷 俊康
ㄥ35	神田 敬	ㄥ58	丹野 裕和	ㄥ17	大野 幸恵
ㄥ35	河野 宏	ㄥ59	伊豫 雅臣	ㄥ17	鳩貝 健
ㄥ36	前嶋 清	ㄥ59	藤本 肇	ㄥ18	今井 恵理
ㄥ38	谷 修一	ㄥ60	岡田 朝志	ㄥ19	細川 淳一
ㄥ38	鳥羽 剛	ㄥ61	林 偉明	ㄥ20	丘 育容
ㄥ39	崎山 樹	ㄥ61	新島 真文	ㄥ20	岡原 陽二
ㄥ41	里村 洋一	ㄥ62	鈴木 正人	ㄥ21	幸本 達矢
ㄥ42	岡崎 卓見	ㄥ63	横手幸太郎	ㄥ21	山村 智彦
ㄥ44	渡辺 義郎	平元	粟生田 輝	ㄥ23	椎名 裕樹
ㄥ46	松岨 理	ㄥ3	赤坂 武	ㄥ23	若井 健
ㄥ46	渡部 恒夫	ㄥ5	花岡 英紀	ㄥ24	秋葉 歩
ㄥ47	大野 一英	ㄥ6	大島 精司		
ㄥ47	大橋 浩文	ㄥ7	竹内 男		

## 評議員について

**評議員検討委員会委員長**

**吉原 俊雄 (昭53)**

このたび、ゐのほな同窓会の新評議員の名簿一覧を掲載いたします。これまで総務会、常任理事会の検討を経て同窓会の活性化を図るため、その基軸となる組織を評議員会とすることが

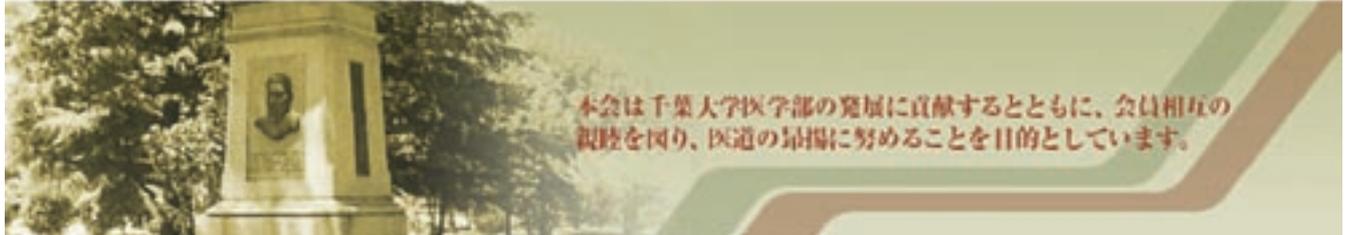
了承されました。従来、同窓会評議員の仕事、義務、権限など全く実態がなく、本人も評議員であることを知らないという場合もありました。昨今の若手同窓会離れ、支部会員の減少など

同窓会の問題点は山積しています。今後は将来に向けて、評議員はクラス代表幹事の役割として、診療、研究をはじめとして、各病院、研究所や診療所間の連携、情報伝達の要となることを期待するものです。評議員の先生方のメール、FAX等の連絡網の整備からはじめ、第1回の会合も開催できればと考えております。

# オンライン会報案内

<http://www.inohana.jp/online/index.html>

**ゐのはな** 千葉大学医学部 ゐのはな同窓会



インターネット動画会報のオンライン会報では、順次、新企画番組を提供しております。例えば、千葉大学大学院医学研究院における留学生の学位修得後の状況や海外共同研究者らの国際交流先機関の情報を掲載しております。また、刻々と変貌している母校の姿をキャンパス便りにて配信しております。一方、千葉日报社や志学書店との協力により、ゐのはな同窓会員の福利厚生に資する情報の提供も始めています。

## 国際交流



**承德医学院との交流**  
伊藤晴夫（千葉大学名誉教授）  
Zhang Sho Feng（承德医学院 院長）  
他  
【2012.8.15 掲載】

▶ 映像を見る

## カテゴリー一覧

- ・ 病院紹介
- ・ 同窓会員経営の病院・医院・診療所の紹介
- ・ 生涯学習講座      ・ 「ほっとひといき」ちば通信
- ・ インタビュー      ・ 国際交流
- ・ 同窓会      ・ クラス会・他大学等
- ・ キャンパス便り      ・ 都道府県医師対策
- ・ オンライン書庫      ・ 話題
- ・ 135周年記念事業協賛企業の紹介

## 河北医科大学



**【1】法医学系毒物学教室との日中共同研究の発展経緯および河北医科大学の風景**  
Mei Dong（河北医科大学基礎医学院法医学系教授）

▶ 映像を見る



**【2】交流講演**  
・ 産官・日中共同研究紹介  
機能性ゼオライトセラミックスについて  
佐藤一男（株式会社ウェッジ代表取締役）

山岡賢二（同 取締役）

▶ 映像を見る

左よりDong、吉田、伊藤、  
山岡、佐藤（敬称略）

・ 医学教育講座  
健康食品 医食同源、薬食同源  
伊藤晴夫（千葉大学名誉教授／千葉大学医学部ゐのはな同窓会会長／NPO千葉健康づくり研究ネットワーク代表理事）

▶ 映像を見る

・ 災害対策講座  
大規模災害時における医療用水の確保  
吉田政高（千葉大学大学院医学研究院非常勤講師／NPO千葉健康づくり研究ネットワーク理事）

▶ 映像を見る

【2012.6.19 掲載】

オンライン会報

検索



### キャンパス便り



**高齢化社会における高齢社会医療政策研究部の役割**  
 高林克己 (千葉大学医学部附属病院企画情報部 部長)  
 (千葉大学高齢者関連3部門開設記念 高齢社会を考えるシンポジウムにおける講演 2012.7.2)  
 [2012.8.15 掲載]



**認知症医療センターの紹介**  
 桑原 聡 (千葉大学大学院医学研究院 神経内科学 教授)  
 (千葉大学高齢者関連3部門開設記念 高齢社会を考えるシンポジウムにおける講演 2012.7.2)  
 [2012.8.15 掲載]



**先進加齢医学講座の紹介**  
 横手幸太郎 (千葉大学大学院医学研究院 細胞治療内科学 教授)  
 (千葉大学高齢者関連3部門開設記念 高齢社会を考えるシンポジウムにおける講演 2012.7.2)  
 [2012.8.15 掲載]

### 千葉日報の医療新世紀面で病院紹介を開始

オンライン会報「ゐのほな同窓会会員が経営する医院や病院の紹介」を、9月より、県民紙である千葉日報の医療新世紀面(月2回・だいたい木曜掲載)の「頼りになります 街のお医者さん」でも紹介することとなりました。広く千葉県民に良質の医療を知っていただくためのコラムです。

ゐのほな同窓会員の病院・医院の紹介をオンライン会報と千葉日報へ同時掲載することをご希望の場合、ゐのほな同窓会本部事務局(TEL:043-202-3750、FAX:043-202-3753)までお知らせください。

### 「ほっとひといき」ちば通信(千葉日報)



- 千葉大学房総研究会「千葉学ブックレット」
- 千葉の出来事・千葉の新聞のご購読
- 論文や研究、出版のご相談
- 週末はどう過ごそう?  
 ・ゴルフで楽しむ  
 ・雄大な房総で釣り  
 ・じっくりと囲碁対局  
 ・気分転換近場のちばの山に  
 ・その他の観光
- ちばのおみやげ・逸品を!

### 同窓会員経営の病院・医院・診療所の紹介



**神経内科専門クリニック**  
 神経内科 津田沼  
 所長 阪部孝道  
 [2012.8.15 掲載]

### 志学書店と連携



医者の職業  
 東日本大震災  
 被災地職員の記録  
 「目次」を読む  
 「本文(94-1, 98)」を読む

- オンライン書庫の一覧はこちら
- Web志学同窓会「日本経済学会会報」

志学書店  
 ゐのほな同窓会販売  
 サイトへリンク



- ゐのほな同窓会員の書籍ご購入はこちら
- おんらいん書店(志学書店)
- ※ 同窓会会員送料無料サービス実施中

企画中

オンライン書庫から志学書店ゐのほな同窓会販売サイト(おんらいん書店)へリンクできるよう準備中です。同窓会会員執筆書籍の販売窓口の提供や医学書から一般書まで様々な本の購入がオンライン書庫を通して可能になります。

(平成24年8月31日現在)

# 新あのはな同窓会館設立事業募金状況

平成21年の千葉大学医学部創立135周年を機に  
 始めました募金につきまして、下記の方々、  
 施設、団体等からご協力を頂きました。ご芳名  
 は新会館の銘板に刻させて頂きたく存じます。  
 なお、日頃よりご厚情をお寄せ頂いております  
 医療機関等におかれましても、なお一層のご支  
 援を賜れますれば誠に幸甚に存じます。

佐藤 大悟	高橋 健太郎	野村 加奈子	山田 由美
佐藤 孝太郎	高橋 はな	林 康子	山本 里美
佐藤 明日香	田中 美砂子	林 宝樹	山本 太郎
佐藤 健吾	田中 勇気	樋口 一樹	山口 圭大
佐本 健二	田村 和之	古谷 大輔	山口 康平

芳名板デザイン

## 高額寄附者ご芳名

(100万円以上ご寄附)  
 (敬称略)

### 医療機関

旭神経内科病院  
 (医) 大平会嶺井第一病院  
 三田川鉄千葉病院  
 千葉中央メディカルセンター

### 企業・法人等

アステラス製薬(株)  
 キッコーマン(株)

## 寄付者ご芳名

(敬称略)

### 一般個人

片野 鈴枝  
 久保田勲也  
 稲瀬 道和  
 進藤 輝山

### 医療機関

上都賀総合病院  
 埼玉県厚生連 熊谷総合病院  
 (医) 社団よつ葉会介護老人  
 保健施設 さかき光陽

(医) 三愛記念病院  
 (医) 三愛記念そが病院

下都賀総合病院  
 (医) みはま病院

聖隷浜松病院  
 聖隷佐倉市民病院

聖隷横浜病院  
 (医) 船橋クリニック

小太郎漢方製薬(株)  
 第一三共(株)

武田薬品工業(株)  
 田辺三菱製薬(株)

(株) 千葉京成ホテル  
 中外製薬(株)

(株) ツムラ

財団法人 同仁会

鳥居薬品(株)

ファイザー(株)

千葉大学医学部附属病院  
 臨床医学研究助成会

## 医学部後援会

小埜 清  
 医学部後援会

### 同窓会員

土屋 與之(昭24)  
 羽生富士夫(昭29)  
 谷嶋 俊雄(昭34)  
 谷嶋 つね(昭35)  
 加藤 昌義(昭36)  
 岩倉 弘毅(昭37)  
 伊藤 晴夫(昭39)  
 今津 暉(昭40)

## 企業・法人等

赤星工業(株)  
 旭化成ファーマ(株)  
 あすか製薬(株)

アストラゼネカ(株)  
 アルフレックスファーマ(株)

石井食品(株)

(株) 石渡商事

(株) ウチダ和漢薬

栄研化学(株)

エスエス製薬(株)

イーザイ(株)

エース損害保険(株)

(株) エスアールエル

エルメッドイーザイ(株)

大塚製薬(株)

(株) 大塚製薬工場

小野薬品工業(株)

科研製薬(株)

化研生薬(株)

鹿島建設(株)  
 勝又自動車(株)

## 企業・法人等

(株) 北原防災  
 キッセイ薬品工業(株)

杏林製薬(株)  
 興和(株)

協和醗酵工業(株)

キリンファーマ(株)

グラクソ・スミスクライン(株)

クラシエ製薬(株)

クラシエ薬品(株)

京成建設(株)

(株) 小山商会 千葉営業所

佐藤製薬(株)

サノフィ・アベンティス(株)

(株) サラト

沢井製薬(株)

参天製薬(株)

(有) サン・プランニング

(株) サンリツ

(株) 三和化学研究所  
 (株) 志学書店  
 シェリング・プラウ(株)  
 塩野義製薬(株)  
 白鳥製薬(株)

赤井 壽紀(昭43)

唐澤 祥人(昭43)

中村 陽子(昭44)

大西久仁彦(昭47)

旭 俊臣(昭48)

早乙女 勇(昭48)

秋葉 哲生(昭50)

福井 博行(昭56)

角田 隆文(昭57)

仲野 公一(昭63)

岡本 和久(平2)

土井 茂治(平3)

矢野浩二郎(平11)

小山 虎信(公衆衛生学)

(株) 正文社  
 ゼリア新薬工業(株)

大正製薬(株)

大日本住友製薬(株)

大鵬薬品工業(株)

タカイ医科工業(株)

武田バイオ開発センター(株)

(株) 千葉銀行

千葉中央会計事務所

千葉日産自動車(株)

(株) 銚子丸

帝人ファーマ(株)

テルモ(株)

トリアエイヨー(株)

(株) 東葛幸文堂

東京海上日動火災保険(株)

東和薬品(株)

富山化学工業(株)

(株) ナリコー

成田山新勝寺

ニプロファーマ(株)  
 日興コーディアル証券(株)  
 日本イーライリリー(株)





昭45	和田 和泉	渡辺 孝太郎	吉田 行夫	吉井 志彦	高橋 秀禎	間山 素行	細井 湧一	萩巢 敏子	林 恒男	西村 則之	東山 義龍	高良 宏明	須藤 壯一郎	篠原 義賢	神津 照雄	窪田 勝也	高橋 容子	加部 恒雄	奥村 康	遠藤 晴久	石渡 堅一郎	飯塚 登	浅野 武秀	昭44	和田 源司	和泉 佳子	李 思元	松清 央	堀井 文千代	舟橋 満寿子	藤塚 光慶	中村 宏	仲尾 清	鳥居 雅江	千葉 彌幸	田代 重彦	高山 直秀
		渡辺 義郎	吉田 明弘	山岸 厚子	矢田 洋三	堀江 弘	星山 圭鉦	林 雅意	勝武 浩	西島 英世	千本 都紀	東山 秀雄	辛 秀雄	齋藤 康榮	高地 刀志行	黄田 悦子	河崎 純忠	落合 靖男	岡崎 壯之	内海 武彦	石川 達雄	飯島 信行			横堀 直孝	竜 崇正	盛 克己	堀川 義文	星野 聡	藤原 克己	高岡 邦子	中嶋 弘道	鳥居 敏明	土田 弘基	玉井 輝章	滝川 弘志	
多賀谷 茂	高瀬 直人	鈴木 幸弘	櫻井 昌権	大川 昌権	久保 木正夫	木口 博之	神崎 頼仁	磯部 洋子	加来 俊貞	大森 耕一郎	内田 朝彦	今田 屋章	千葉 幸恵	昭46	渡部 十九六	吉田 光宏	湯原 幹男	宮原 弘次	古川 隆男	平山 博久	花輪 孝雄	橋本 英明	永岡 喜久夫	中野 義澄	天神 弘尊	千見 寺勝	高橋 長裕	住吉 徹是	杉山 吉克	腰塚 格	木村 邦夫	榎本 正満	細山 公子	一戸 彰	小俣 政男	アントニー ジョセフ ナポレオン	相田 尚文
谷口 瓊子	高橋 和子	河村 和夫	杉本 弘忠	小林 弘忠	結東 温	北野 邦孝	木澤 庸一	金田 隆司	門井 隆司	荻原 奉祐	大友 一夫	牛嶋 綱二郎	高瀬 直子	昭47	渡辺 義二	与儀 裕	向井 将	榎本 純子	宮蘭 千代子	林 泰	長谷川 毅	野田 宏子	中山 章	伴野 悠士	寺澤 捷年	滝沢 淳	高橋 正年	菅ヶ谷 純弘	堺 常雄	黒田 重史	北島 忠昭	梅津 亮二	伊藤 文二	家里 憲二	濱野 憲二	新井 裕二	
兼坂 俊章	小川 敏清	大場 透	梅田 正純	上野 弘明	猪股 泰子	岩田 誠	昭48	浅野 誠	渡辺 滋	若山 芳彦	山森 秀夫	榎垣 進	西川 哲男	中村 和郎	唐司 則之	田井 東風	鈴木 信夫	勝呂 徹	眞山 和徳	北沢 栄次	加藤 誠	尾形 実	大野 一英	榎本 貴夫	稲葉 憲之	石川 詔雄	昭49	若林 康之	吉田 孝宣	矢端 幸夫	柳橋 京子	保坂 瑛一	平野 和哉	伊藤 文二	久田 俊和	田畑 陽一郎	
金塚 東	笠貫 富雄	小川 美南	大内 重明	上村 逸夫	岩本 逸夫	上村 加代子	一本 昇			脇坂 正美	力武 知之	松川 正明	西野 卓	長尾 啓一	中嶋 征男	若山 曜子	相馬 光弘	鈴木 光二	菅野 勇	栗原 正	菊池 友允	河西 九三	岡 信男	大岩 孝司	宇津 見和郎	伊藤 文憲	昭50	与那嶺 和子	山室 美砂子	三浦 利重	保阪 善昭	川村 ひろみ	久田 俊和	中村 欽哉			
渡辺 順子	森川 眞一	渡辺 博子	長谷川 純	西山 眞理子	中村 文子	田町 誓一	田中 眞	武井 亮二	鈴木 泉	五月 直樹	菊地 紀夫	金子 作蔵	入江 澄子	岩津 都希雄	有田 正明	青柳 光生	昭49	山本 義一	安野 憲一	守田 政彦	保高 由美子	前川 岩夫	千見 寺 徹	野鳥 文磨	野口 哲夫	灘岡 壽英	中村 明	徳久 剛史	高安 賢一	鈴木 洋文	須崎 勢至	佐藤 展将	後藤 澄雄	小林 健一	高圓 博文	木内 信二	
	弓削 恵只	三上 文彦	鳩貝 恭子	西山 裕孝	土佐 純一	田邊 政裕	田中 善治	高原 武幸	佐藤 純	木村 純	田邊 恵美子	片桐 誠	江原 正明	石神 博昭	浅井 隆善	横山 淳一	山路 紀之	森山 昌平	南 昌平	保阪 重莉沙	千見 寺ひろみ	野村 馨	内田 宏子	永山 洋子	内藤 威	千葉 次郎	高島 常夫	鈴木 晴彦	白井 厚治	坂口 明	河野 陽一	片桐 博子	君塚 五郎				
姫野 雄司	南波 美伸	寺野 隆	高橋 和久	佐藤 兼重	坂本 薫	児島 孝行	黒崎 知道	門山 周文	小野 和則	小野 純一	大塚 芳克	井坂 茂夫	秋田 徹	赤嶺 正裕	昭51	横須賀 收	山本 日出樹	森野 正明	宮崎 勝	増村 道雄	野村 文夫	西山 徹	高橋 道子	永瀬 譲史	富谷 久雄	土佐 寛順	隆 元英	篠宮 正樹	佐々木 健	斉藤 万比古	小出 義雄	川口 英昭	鴨下 博	沖本 光典	大塚 裕	入江 氏康	秋谷 徹
布施 秀樹	林 春幸	中山 朝行	寺崎 太郎	篠塚 典男	斎藤 健祐	小松 健二	伊古田 裕子	川村 健二	鏡味 勝	小野 元子	大塚 芳克	井坂 茂夫	秋田 徹	赤嶺 正裕	昭52	山本 博憲	山岸 文雄	村野 俊一	松谷 和徳	増田 政久	野積 邦義	登坂 薫	小林 けい子	中尾 照逸	戸塚 清一	高林 克己	勝呂 慶子	篠遠 彰	佐伯 直勝	後藤 信昭	木村 道雄	河内 文雄	上村 公平	大森 景文	上田 志朗	麻生 誠二郎	
山上 岩男	塚田 純子	花岡 明宏	中村 幸夫	得丸 勝	寺井 博	武永 文晴	鈴木 敏生	小林 敏生	石川 てる代	荻野 幸伸	宇田川 晃一	上田 源次郎	石川 洋	新井 眞男	昭53	山田 善重	湊 明	松岡 明	堀部 和夫	福田 薫	榎前 薫	中山 大典	中沢 肇	高橋 敏信	須田 啓一	小林 純	久保 田浩一	北澄 忠雄	香村 衡一	尾崎 正彦	稲田 晴生	五十嵐 辰男	昭52	由佐 俊和	松村 勉	萩田 順子	紅谷 明
山口 哲生	森 忠道	三瀨 裕子	野々村 裕子	仲田 勲生	徳重 克彦	塚本 哲也	高良 健司	菅沢 寛健	川俣 泰男	織田 成人	遠藤 和男	上野 泉	伊藤 公道	安 徳純	昭54	山口 孝幸	松前 吉雄	升田 斎	古川 明夫	兵頭 明夫	林田 和也	中村 勉	塚田 和美	高田 俊一	鈴木 孝雄	小林 彰	木村 正幸	香村 玲子	海宝 雄一	大迫 政智	奥野 妙子	昭54	山本 和夫	八木 橋美範	松谷 正一	萩田 順子	
加藤 邦彦	小川 利隆	伊藤 博	足立 武則	昭56	羅 智靖	宮崎 三忠	藤田 明	水見 寿治	蓮沼 桂司	野田 和男	永井 将道	十川 康弘	田中 篤	須藤 義夫	柴橋 博之	栗原 和男	神崎 哲人	雄賀 多聡	有我 隆光	昭55	吉田 弘道	福田 幾夫	中村 眞人	鶴田 好孝	田川 雅敏	鈴木 良一	杉浦 信之	篠遠 仁	萬 伸子	石毛 俊行	五十嵐 忠彦	昭54	渡邊 浄	若林 正治	吉原 俊雄	吉澤 卓	
亀井 克彦	笠松 陽一	伊藤 隆			湯口 恭利	前田 勝久	深澤 一雄	水見 京子	橋本 尚武	長島 尚武	鳥居 俊男	亀井 太美子	砂田 莊一	杉原 茂孝	潮平 芳樹	久木 親重	長 雄一	植松 武史	渡辺 恒家	昭55	宮本 恒彦	林 北見	宮崎 泉	巽 浩一郎	高野 正一	杉田 克生	下条 直樹	近藤 福雄	小林 進	今関 文夫	伊澤 英次	和 田	李 元浩	吉田 英生			





**第19回日本航空医療学会総会開催**

配備され4年目を迎えるドクターヘリで活躍中の、北村伸哉（平1）国保君津中央病院救命救急センター長が会長となり、航空医療に関する学術集会を、千葉県木更津市にある「かずさアカデミアホール」で開催する。昨年の「安全運行」に続き、「迅速性」をテーマとした。

**日程 平成24年11月9日（金）**

パネルディスカッション

Total prehospital time を考える

**平成24年11月10日（土）**

シンポジウム

航空医療、多機関の活動

一般演題

ドクターヘリ市民公開講座

基調講演 北村伸哉

記念講演 海堂 尊

トークセッション

国松孝次、海堂尊、北村伸哉、他

同窓の皆様のご参加歓迎。問い合わせは国保君津中央病院（0438-36-1071）又はHP（<http://jsas19.org/>）参照

**新るのはな同窓会館設立事業について**

7月9日に新るのはな同窓会館1期工事の再入札が行われましたが、前回とほぼ同様の理由で不調に終わりました。これ以上の仕様の変更は難しいため、再々入札に向けて入札予定額を増加させなければならぬ状況です。更なるご寄付のお願いを会員の皆様にしなくてはなりません。再々入札の具体的な日時は決まっていますが、10月以降となる予定です。ここで落札すれば、竣工は、来年7月末となる予定です。一日も早く、ご寄付いただいた会員の皆様のご期待に応えられるよう今後とも設計担当者と連携しながら事業を進めていく所存です。

建物・設備等整備委員会委員長 田邊政裕

**公益財団法人猪之鼻奨学会お知らせ**

**平成24年度役員及び助成事業給付決定**

当財団は大正4年（1915年）に医学及び薬学の研究を奨励することを目的として創設され、多くの方々からの善意の寄付金により事業が継続されています。そして平成24年4月に公益財団に移行しました。当財団の活動を支えるために、ご支援くださる皆様方に心より感謝申し上げます。

当財団への寄付は、税制上の優遇措置の対象となります。今後とも一層のご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。今年度の役員が決まり、下記の通り助成事業の給付が決定しましたのでお知らせします。

記

- 1. 研究助成 各50万円
  - 千葉大学医学研究院 分化制御学 谷口俊文
  - 千葉大学医学研究院 脳神経外科 八巻智洋
  - 千葉大学薬学研究院 薬化学 根本哲宏
- 2. 奨学金貸与 各30万円
  - 千葉大学医学修士課程2年次 川村美香
  - 千葉大学医学部医学科2年次 白鳥太一

なお、研究助成等の情報は猪之鼻奨学会ホームページでご覧いただけます。

公益財団法人猪之鼻奨学会

電話 043-226-2509 FAX 043-226-2509

ホームページアドレス <http://www.m.chiba-u.ac.jp/zaidan>

**平成24年度 役員名簿**

役名	氏名
名誉会長	村山 智
名誉会長	清水 文七
名誉会長	近藤洋一郎
名誉会長	千葉 胤道
会長・代表理事	鈴木 信夫
副会長・理事	山本 恵司
常務理事	白澤 浩
理事	服部 孝道
理事	橘 正道
理事	立崎 隆
監事	瀧口 正樹
評議員	税所 宏光
評議員	野村 文夫
評議員	田邊 政裕
評議員	清水 栄司
評議員	上野 光一
評議員	戸井田敏彦
評議員	高山 廣光

**当公益財団への寄付は、税制上の優遇措置の対象となります。**



ベグインターフェロン- $\alpha$ -2a製剤  
劇薬、処方せん医薬品<sup>注</sup>  
**ペガシス<sup>®</sup>皮下注** 90 $\mu$ g / 180 $\mu$ g  
**PEGASYS<sup>®</sup>** ベグインターフェロンアルファ-2a(遺伝子組換え)注  
注)注意—医師等の処方せんにより使用すること ⑧F.ホフマン-ラ・ロシュ社(スイス)登録商標

【薬価基準記載】

※効能・効果、用法・用量、警告、禁忌を含む使用上の注意、効能・効果に関連する使用上の注意、用法・用量に関連する使用上の注意等については添付文書をご参照ください。

<http://www.chugai-pharm.co.jp>

（資料請求先）  
 製造販売元 **中外製薬株式会社**  
〒103-8324東京都中央区日本橋室町2-1-1

2012年6月作成

# 千葉大学医学部 135 周年記念誌 刊行

2012年5月31日に発行いたしました。

A4判 カラー 495頁

発行：千葉大学医学部 135周年記念事業会

編集：千葉大学医学部記念誌出版委員会

## 【目次】 序

第1章 近年の歩みを俯瞰して（14項目）

歴代学長 歴代医学部長・研究院長 歴代附属病院長 歴代みのはな同窓会長

第2章 医学研究院・医学部，附属病院の歩み（84項目）

医学研究院・医学部 寄附講座 附属病院 寄附研究部門 付属施設

第3章 関連施設，団体の歩み（6項目）

関連施設 関連団体等

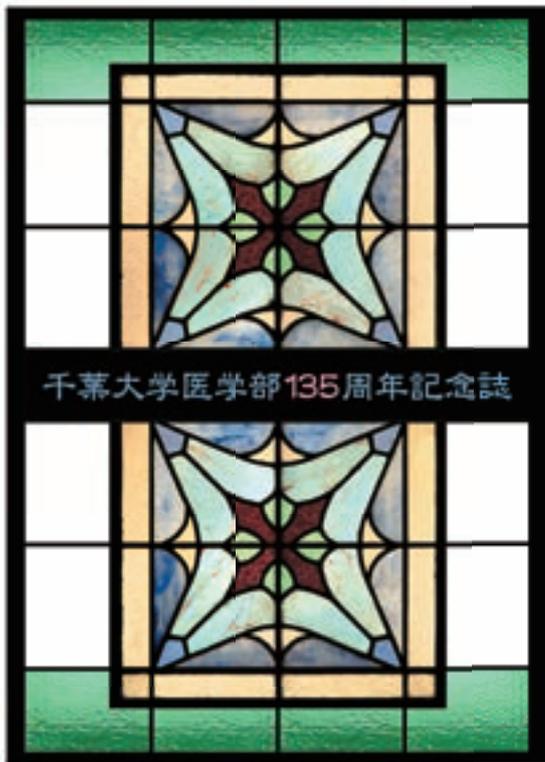
第4章 同窓の発展（17項目）

第5章 交友の広がり（29項目）

特別寄稿 辛亥革命・留学生派遣記念碑 千葉医学専門学校・千葉医科大学時代の留学生たち

千葉大学医学部の伝統（千葉医学の伝統）言語化プロジェクト-135周年記念事業-

みのはなの変遷 千葉大学医学部135年史年表



135周年記念誌は、新みのはな同窓会館設立事業へご寄附頂いた方へ謹呈致しております。

すでにご寄附頂いた方で、お手元に記念誌が届いていない場合は下記へご連絡下さい。

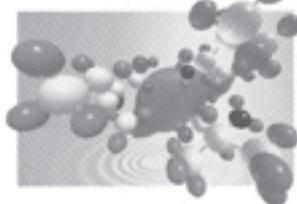
近日中には、電子版をみのはな同窓会HPに掲載する予定です。電子版には、補遺編を作成する計画ですので、新たにご寄稿等ご予約の方はご一報頂ければ幸いです。

連絡先： 事務担当 高野  
千葉大学医学部創立135周年記念事業会  
tel:043-226-2042 ; fax:043-202-3753  
e-mail:  
igaku-135kinen@office.chiba-u.jp

あなたのもとに

こころをこめて

AJINOMOTO.



分結晶アミノ酸製剤  
日本薬局方  
イソロイシン・ロイシン・バリン顆粒

**リバクト** 配合顆粒  
LIVACT<sub>amino</sub>

AJIMed.

消化器関連情報の配信サイト  
<http://www.ajinomoto-seiyaku.co.jp/ajimed/>

先生方のお役に立てるような情報を配信する医療関係者専用の会員制サイトです。

★「効能又は効果」、「用法及び用量」、「禁忌を含む使用上の注意」等、詳細は製品添付文書をご参照ください。



製造販売  
味の素製薬株式会社  
〒104-0042 東京都中央区入船二丁目1番1号

〔資料請求先〕  
味の素製薬株式会社 くすり相談  
☎0120-917-719

2011年10月作成  
LV-J854-1011-KK

事務局からのお願い  
◎ 転居・転勤などの届出  
異動の都度、事務局へご一報  
ください。

